

經 濟 学 部

履 修 要 項

昭 和 62 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月 8日(水) 入学式(学部・短大)
- 9日(木) } 新入生オリエンテーション
- 14日(火) }
- 9日(木) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 10日(金) }
- 9日(木) } 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)
- 10日(金) } 受付(学部2年次生)
- 9日(木) }
- 20日(月) } 在校生身分証明登録(学部・短大)
- 13日(月) }
- 18日(土) } 在校生成績質疑応答(学部・短大)
- 15日(水) 前期授業開始
- 22日(水) } 履修届受付(学部・短大)
- 27日(月) } (学部により受付日が異なる)
- 5月 7日(木) } 春季健康診断
- 13日(水) } (卒業年次生対象)
- 25日(月) } 卒業論文論題受付
- 6月 10日(水) } (締切日は正午まで)
- 7月 6日(月) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生および経済学部の2年次生)
- 11日(土) }
- 15日(水) } 中間試験(授業平常どおり)
- 21日(火) }
- 21日(火) 前期授業最終日
- 22日(水) } 前期終了科目定期試験
- 23日(木) }
- 24日(金) 夏季休暇第1日(9月14日まで)
- 24日(金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース・
- シーズンコース(テニス)
- 28日(火) } (学部2年次生)
- 28日(火) } 前期終了科目定期試験欠試届(追試験申込)受付締切

後 期

- 9月 7日(月) } 補講期間
- 12日(土) }
- 16日(水) 後期授業開始
- 17日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質疑応答)および再試験申込受付
- 18日(金) }

- 25日(金) }
- 10月 1日(木) } 前期追・再試験(授業平常どおり)
- 1日(木) }
- 2日(金) } 専攻コース指定届受付
- 5日(月) } (歴史・社会学科1年次生)
- 8日(木) }
- 15日(木) } 秋季健康診断(1~3年次生対象)
- 15日(木) } 第105回開校記念日(全学休業)
- 11月 11日(水) }
- 13日(金) } 転部・転科試験願書受付
- 27日(金) } 転部・転科試験
- 12月 1日(火) }
- 10日(木) } 卒業論文受付(締切日は正午まで)
- 3日(木) }
- 11日(金) } 編入学試験願書受付
- 19日(土) } 冬季休暇第1日(1月7日まで)
- 19日(土) }
- 23日(水) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 21日(月) } (学部2年次生)
- 21日(月) 編入学試験

昭和63年

- 1月 8日(金) 後期授業再開
- 14日(木) 後期授業最終日
- 16日(土) }
- 27日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 28日(木) }
- 2月 5日(金) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 6日(土) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年次生・短大生)
- 6日(土) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締切(学部1~3年次生)
- 8日(月) } 卒業論文口頭試問
- 15日(月) }
- 19日(金) } 体育実技Ⅱシーズンコース
- 18日(木) } (スキーA・B)(学部2年次生)
- 19日(金) } 成績発表(質疑応答)および追・再試験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 25日(木) }
- 追・再試験(学部4年次生・短大生)
- 追試験(学部1~3年次生)
- 3月 2日(水) }
- 19日(土) } 卒業者名簿発表(学部・短大)
- 25日(金) } 卒業式(学部・短大)

経済学部学生諸君へ

この「履修要項」は、諸君が本学経済学部の学生として4年間の学園生活を過ごすために必要であると思われる学習上の基本的事項をまとめたものである。

経済学部における教育の主たる目標はすぐれた職業人であると同時にすぐれた社会人を育成し、社会の進展に貢献することにある。そのために諸君は、専門的な知識のほかに教養ある社会人として必要な人文・社会・自然について深い理解をもつことが要求される。

また、わが国経済の著しい国際化の傾向にともない、今後国際交流が一段と推進されると思われるが、国際社会で活躍するにはなによりも外国語を十分マスターしておくことが必要である。

諸君がこうした目標を達成できるように、本学部の教育課程は「一般教育科目」「外国語科目」「保健体育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」および「随意科目」から構成されており、4年間にわたり幅広く、体系的に学習できるよう十分配慮されている。

さらに経済学部の教育制度上の特徴は、「専門科目」に大幅な選択制を導入するとともに、少人数によるゼミナールを数多く開講している点である。こうした選択制とゼミナールによる教育を重視しているのは、学生諸君の自主的な学習を尊重することにより諸君の能力を効果的に発揮させ、個性豊かな人間を形成することを教育の最終目標としているためである。

諸君はこうした経済学部の教育課程の特質を十分に理解し、将来どのような局面に遭遇しても問題点の所在を的確に把握し、その解決方法を自らの努力と判断で見いだして行く能力を身につけてもらいたいと念じている。

最後に、この「履修要項」を熟読し、4年間の貴重な大学生活を計画的に、しかも悔いのない充実したものとして送られることを切に期待するものである。

駒沢大学経済学部

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位計算 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 学 士 号 (5)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (6)
2. 外国語科目の履修方法 (7)
3. 保健体育科目の履修方法 (10)
4. 基礎教育科目の履修方法 (11)
5. 専門教育科目の履修方法 (11)
6. 随意科目の履修方法 (15)
7. 再履修科目の履修方法 (15)
8. 授業科目のコード番号について (16)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (17)
2. 履修届記入上の注意 (18)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (19)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (20)
2. 中間試験 (20)
3. 追・再試験 (20)
4. 受験心得 (21)
5. 成績評価・単位認定 (21)
6. 試験時間 (21)

VI 進級について	(22)
VII 教職課程・資格講座	(23)
VIII 事務取扱いについて	
1. 成績発表・成績証明書	(24)
2. 授業時間	(24)
3. 事務室の事務受付時間	(24)
4. 休 講	(24)
5. 掲 示	(24)
6. 問い合わせ	(24)
IX 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(25)
2. 休 学	(25)
3. 復 学	(25)
4. 退 学	(26)
5. 除 籍	(26)
6. 懲 戒	(26)
7. 再 入 学	(26)
8. 編 入 学 (学士入学)	(26)
9. 転部・転科	(27)
10. 学生氏名・保証人	(27)
11. 学生番号	(27)
X 既修得単位の認定について	(28)
XI 届書・願書について	(29)
XII 各種証明書取扱い窓口	(30)
試験実施規程 (抜粋)	(31)
進 級 規 程	(33)
講 義 内 容	(35)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上(7カ年を超えてはならない)である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

経済学科

A. 60年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

B. 58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	16	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	84	
	選択	17	68		

経済学科

C. 56・57年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	5	10	18	
	第2外国語	4	8		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	3	12	84	
	選択	18	72		

D. 55年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	146以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	14	
	第2外国語	3	6		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	4	16	88	
	選択	18	72		

商 学 科

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

B. 57~59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	3	12	84	
	選 択	18	72		

商 学 科

C. 56年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	5	10	18	
	第 2 外 国 語	4	8		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	1	4	84	
	選 択	20	80		

D. 55年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	4	16	36	} 146以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	14	
	第 2 外 国 語	3	6		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専 門 教 育 科 目	必 修	2	8	88	
	選 択	20	80		

2. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

経済学部 { 経済学科……………経済学士
 { 商学科……………商学士

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	4単位ずつ4科目	計16単位	} 合計9科目 36単位
社会分野	4単位ずつ3科目	計12単位	
自然分野	4単位ずつ2科目	計8単位	

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	} 「宗教学Ⅰ」・「宗教学Ⅱ」の2科目を含めて4科目選択必修	16	} 36	
	宗教学Ⅱ(2年次必修)	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理学	4				
	文法学	4				
社会分野	法学憲法 (日本国憲法2単位を含む)	4	} 3科目選択必修	12	}	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。
	政治学(2年次)	4				
	社会学(2年次)	4				
	地理学	4				
	統計学	4				
	文化人類学	4				
自然分野	自然科学概論	4	} 2科目選択必修	8	}	
	数学	4				
	心理学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は火曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1・2年次および3年次（56年度以降入学生）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2(2)	4(4)	2(2)	4(4)	4(4)	8(8)
2年次	2(2)	4(4)	2(1)	4(2)	4(3)	8(6)
3年次	1	2	—	—	1	2
計	5(4)	10(8)	4(3)	8(6)	9(7)	18(14)

※（ ）内の数字は55年度以前入学生適用。

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは「英会話Ⅰ」または「英語LLⅠ」に代替できる。	LLⅠ（ランゲージ・ラボラトリー）
英語 1R	2			
英会話Ⅰ	2			
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とする。	
ドイツ語 1R	2	講 読		
フランス語 1G	2	文 法		
フランス語 1R	2	講 読		
中国語 1G	2	文 法		
中国語 1R	2	講 読		
スペイン語 1G	2	文 法		
スペイン語 1R	2	講 読		
ロシア語 1G	2	文 法		
ロシア語 1R	2	講 読		

※ 英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※「英語 1R」の授業は火曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

A. 56年度以降入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語（英語と他の1カ国語）を、それぞれ2AⅠ・2AⅡの2科目ずつ計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 A I	2	} 2科目必修	ド イ ツ 語 2 A I	2	} 1年次で履修 した1カ国語 2科目必修
英 語 2 A II	2		ド イ ツ 語 2 A II	2	
			フ ラ ン ス 語 2 A I	2	
			フ ラ ン ス 語 2 A II	2	
			中 国 語 2 A I	2	
			中 国 語 2 A II	2	
			ス ペ イ ン 語 2 A I	2	
			ス ペ イ ン 語 2 A II	2	
			ロ シ ア 語 2 A I	2	
			ロ シ ア 語 2 A II	2	

※ 英語科目内容

英語 2 A I : 講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語 2 A II : 意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修

1・2年次で履修の2カ国語のうち、いずれか1カ国語を第1外国語とし3Aを1科目2単位必修とする。

第1外国語

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 3 A	2		中 国 語 3 A	2	
ド イ ツ 語 3 A	2		ス ペ イ ン 語 3 A	2	
フ ラ ン ス 語 3 A	2		ロ シ ア 語 3 A	2	

※ 英語科目内容

英語 3 A : 1年次、2年次の英語力を基礎とし現代英語を通して国際的視野を養う。

B. 55年度以前入学生適用

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位、他方を第2外国語として2Bを1科目2単位、計3科目6単位を必修とする。

第1外国語（指定した外国語2AⅠ・2AⅡの2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	
ド イ ツ 語 2AⅠ	2		ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	
ド イ ツ 語 2AⅡ	2		ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2		ロ シ ア 語 2AⅠ	2	
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2		ロ シ ア 語 2AⅡ	2	

第2外国語（指定した外国語2Bを1科目2単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 2 B	2		中 国 語 2 B	2	
ド イ ツ 語 2 B	2		ス ペ イ ン 語 2 B	2	
フ ラ ン ス 語 2 B	2		ロ シ ア 語 2 B	2	

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1・2年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）のうち、3年次に履修する第1外国語を学生自身が指定し、2年次の7月初旬に登録すること。（56年度以降入学生）
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 3年次（55年度以前入学生は2年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位「体育実技Ⅰ」、2年次1科目1単位「体育実技Ⅱ」の3科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は火曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、「体育実技受講要領」を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	前期または後期
実技	体育実技	2	通年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次において1科目4単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	経済学概説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

イ. 1・2年次開講科目は、ほとんど基礎的科目である。

ロ. 所属学科の開講科目を履修することを原則とするが、特に希望する場合、同学部内の専門教育科目に限り他学科の開講科目でも履修して試験に合格すれば単位は認められる。(科目コード番号が335…ではじまる科目)

ただし、必修科目に関しては他学科の科目は履修できない。

経済学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用（4科目16単位）

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	
経済原論Ⅱ	4	
経済史	4	
経済政策	4	

B. 56・57年度入学生適用（3科目12単位）

2年次必修		
授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	旧「経済原論」
経済史	4	
経済政策	4	

C. 55年度以前入学生適用（4科目16単位）

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経済原論Ⅰ	4	旧「経済原論」	外書講読Ⅰ	4	
経済史	4				
経済政策	4				

選択科目の卒業所要単位数

- A. 58年度以降入学生適用（68単位以上）
- B. 57年度以前入学生適用（72単位以上）

商 学 科

必 修 科 目

A. 57年度以降入学生適用（3科目12単位）

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4		商 学 総 論	4	
			経 営 学 総 論	4	

B. 56年度入学生適用（1科目4単位）

1 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4	

C. 55年度以前入学生適用（2科目8単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4		外 書 講 読 I	4	

選 択 科 目 の 卒 業 所 要 単 位 数

A. 57年度以降入学生適用（72単位以上）

B. 56年度以前入学生適用（80単位以上）

選 択 科 目 一 覧 (経 済 ・ 商 学 科 共 通)

1 年 次 選 択			3・4 年 次 選 択			3・4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
会 計 学 総 論	4	※イ	国 民 所 得 論	4		商 業 政 策	4	
2 年 次 選 択			景 気 変 動 論	4		マ ー ケ テ ィ ン グ	4	
経 済 原 論 I	4	※ロ	日 本 経 済 史	4		貿 易 論	4	
経 済 原 論 II	4	※ハ	経 済 地 理	4		貿 易 実 務	4	
統 計 原 論	4		国 際 経 済 論	4		証 券 市 場 論	4	
経 済 史	4	※ニ	農 業 政 策	4		保 険 論	4	
経 済 政 策	4	※ニ	工 業 政 策	4		交 通 論	4	
商 学 総 論	4	※ホ	財 政 学	4		商 品 学	4	
商 業 史	4		財 政 政 策	4	※ト	経 営 管 理 論	4	
経 営 学 総 論	4	※ヘ	金 融 論	4		労 務 管 理	4	
簿 記 論	4		国 際 金 融 論	4		財 務 管 理	4	
財 務 会 計 論	4		銀 行 論	4		原 価 計 算 論	4	
憲 法	4		社 会 政 策	4		会 計 監 査 論	4	
民 法 一 部	4	総 則 物 権	労 働 経 済 論	4		管 理 会 計 論	4	
演 習 I	4		中 小 企 業 論	4		税 務 会 計 論	4	
3 年 次 選 択			人 口 論	4		民 法 二 部	4	債 権
演 習 II	4		教 育 経 済 論	4		商 法 一 部	4	総 則 会 社 法
4 年 次 選 択			日 本 経 済 論	4		商 法 二 部	4	商 行 為 ・ 手 形 ・ 小 切 手 法
演 習 III	4		ア ジ ア 経 済 論	4		労 働 法	4	
3・4 年 次 選 択			中 国 経 済 論	4		経 済 法	4	
経 済 学 史 I	4		ア メ リ カ 経 済 論	4		原 書 講 読	4	
経 済 学 史 II	4		ヨ ー ロ ッ パ 経 済 論	4				
価 格 理 論	4		ソ ビ エ ト 経 済 論	4				

※イ、「会計学総論」経済学科の学生に限り適用。簿記学（「簿記論」ではない）の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ、「経済原論Ⅰ」旧「経済原論」。商学科の学生に限り適用。

※ハ、「経済原論Ⅱ」商学科の学生で58年度以降入学生に限り適用。

※ニ、「経済史」、「経済政策」商学科の学生に限り適用。

※ホ、「商学総論」商学科の学生で57年度以降入学生は必修科目として履修すること。

※ヘ、「経営学総論」旧「経営経済学」。商学科の学生で57年度以降入学生は必修科目として履修すること。

※ト、「財政政策」旧「財政政策論」。財政政策論の単位を修得した学生は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比較思想特講	4		英 語 LLⅡ	2	
英 会 話 Ⅱ	2		ド イ ツ 語 FLL	2	初 級・中 級
ド イ ツ 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	初 級・中 級
フ ラ ン ス 語 F	2		中 国 語 FLL	2	初 級・中 級
中 国 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	初 級・中 級
ス ペ イ ン 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	初 級・中 級
ロ シ ア 語 F	2				

○ 外国人留学生対象の随意科目「日本語F」について（1年次生より履修できる。）

イ. 1年次生は、学年始めに実施する「日本語テスト」の結果により「日本語F」科目を指定するので、その指定された科目を履修すること。

ロ. 2年次生以上の学生もできるだけ履修することが望ましい。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 F (Ⅰ)	2	基 礎 1	日 本 語 F (Ⅳ)	2	応 用 2
日 本 語 F (Ⅱ)	2	基 礎 2	日 本 語 F (Ⅴ)	2	演 習
日 本 語 F (Ⅲ)	2	応 用 1			

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語（3Aは除く）・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。

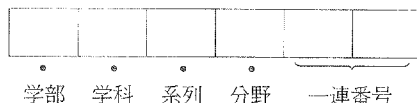
ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

8. 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



ロ. 学部, 学科番号は「学生番号 (P. 27 参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1 (必修)・2 (選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	3
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数（制限科目数）は原則として次のとおりとする。

年次	新履修科目数	再履修を含む科目数
1年次	15科目	—————
2年次	5科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
3年次	5科目以上12科目以内	53年度以前入学生は制限外，それ以外は制限内
4年次	5科目以上14科目以内	

イ. 体育実技Ⅱ，課程・講座科目，随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語 F（Ⅰ～Ⅴ）」は，1年次生より履修することができ，上記表の制限外とする。

ハ. 制限範囲内で順次履修すれば，4年次においての新履修科目は専門3科目だけとなり，課程・講座科目の履修や未・再履修科目の補充も制限科目数の範囲内で十分可能となる。

ニ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は原則として登録できない。ただし，同学部内で他学科の専門教育科目（P.11参照）を特に希望する場合は，履修登録できる。また，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
一時限	ドイツ語 1G	312201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前期)	314201	長 濱	A10
	保健体育理論(後期)			622
三時限	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	~~~~~			
四時限	論 理 学	310203	國 嶋	306
	~~~~~			
五時限	自然科学概論	310401	宇和川	104
~~~~~				

正しい記入例

曜 日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 コ ー ド	担 任	担 任 コ ー ド
月	1		ドイツ語 1G	312201	百 済	879
	2		保健体育理論(前期)	314201	長 濱	A10
	3		宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	4	○	論 理 学	310203	國 嶋	306
	5		自然科学概論	310401	宇和川	104

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段・後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 間違い易い数字で記入した場合(例 0と6, 1と7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

経済学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から6または7科目を 自然分野 } 選択必修(不足単位は2年次で履修)	7
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

商学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	経済学概説（必修）	1
5	専門教育科目	会計学総論（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から6科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	6
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとじた上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再試験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担任教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机の上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意をすること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意をすること。
 - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追(再)試験実施時間(前期)	追(再)試験実施時間(後期)
1時限 9：30～10：30	4時限 14：30～15：30	1時限 16：10～17：00	1時限 9：30～10：20
2時限 11：00～12：00	5時限 15：50～16：50	2時限 17：10～18：00	2時限 10：50～11：40
3時限 13：00～14：00	6時限 17：10～18：10		3時限 13：00～13：50
			4時限 14：10～15：00
			5時限 15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.31）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○ 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○ 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が、17単位以上不足している場合。

進級規程が掲載されている（P.33）ので参照のこと。

VII 教職課程・資格講座

経済学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。(ただし、社会福祉主事講座は59年度以降の入学生より適用。)

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会福祉を増進させるための機関等、および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。(授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座 名	備 考
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	”
社会福祉主事講座	” 59年度入学生より適用
社会教育主事講座	”

Ⅷ 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第 1 時限	第 2 時限	第 3 時限	第 4 時限	第 5 時限
時 間	9 : 00～10 : 30	10 : 40～12 : 10	12 : 50～14 : 20	14 : 30～16 : 00	16 : 10～17 : 40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担任教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことで、本学の修業年限は4年である。
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有していられる期間のことで、本学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の理由で引き続き2カ月以上修学することができない者は、その理由を付して、保証人連署の休学願を提出し、許可を得て休学することができる。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2カ月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1カ年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4カ年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復学

- イ. 休学者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月7日までに提出し、許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し、許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を明記し保証人連署で願い出ること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日については、次のとおりとする。

(1) 当該期学費納入者……退学願提出日

(2) 当該期学費未納者……学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 再入学

本大学を中途退学した者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可する。

イ. 退学後3年以内の者に限る。(出願時を基準とする。)

ロ. 在学年数が、従前在学の期間と、再入学後卒業までの期間の通算が7年以内で修業できる見込みの者。

ハ. 1年次在学中に退学した者、除籍者および退学処分者は対象としない。

ニ. 再入学志望学科は、従前在学の学部・学科であること。

ホ. 再入学の年次は、退学時の年次(進級可能な場合は進級年次)とし、従前在学中に取得した単位は原則として認定する。

8. 編入学(学士入学)

本大学卒業者(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者のあるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。

ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既に、それぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、入学した年度の4月3日までに既修得単位認定申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

この単位認定については、昭和62年度新入生、編入学者、再入学者および転部・転科者から適用する。

XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領 (必要書類)	本人印	保証人印	取扱窓口
届	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 戸籍抄本添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 戸籍抄本添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 在学誓書(保証書)添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	要	
	保 証 人 住 所 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 死亡診断書添付。 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 傷病による場合は、医師の診断書添付。 ・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在学期間を証明する書類。 ・ その他の場合は、保証人連署の理由書。 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。 ・ 4月7日までに提出すること。 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 学生証添付。 	要	要	

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 (英文証明書) 1通 300円)
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部	
人 物 考 査 書		
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	無 料
学 割		
通 学 証 明 書		

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和62年2月23日改正

(目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、経営学部及び経営学部第2部においては48単位以上、他の学部においては50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ. 経済学部及び経済学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

エ. 経営学部においては86単位以上、経営学部第2部においては84単位以上を修得し、かつ、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

省 略

講義内容目次

一般教育科目	(39)
保健体育科目	(45)
随意科目	(46)
基礎教育科目	(49)
専門教育科目	(50)
教職および資格講座	(65)

一般教育科目

人文分野	
宗教学Ⅰ(末光 愛正)	39
宗教学Ⅰ(池田 魯参)	39
宗教学Ⅰ(田上 太秀)	39
宗教学Ⅰ(吉津 宜英)	39
宗教学Ⅰ(袴谷 憲昭)	39
宗教学Ⅰ(片山 一良)	39
宗教学Ⅰ(再クラス)(岡部 和雄)	40
宗教学Ⅰ(再クラス)(奈良 康明)	40
宗教学Ⅱ(中野 東禅)	40
宗教学Ⅱ(永井 政之)	40
宗教学Ⅱ(伊藤 秀憲)	40
宗教学Ⅱ(大谷 哲夫)	40
宗教学Ⅱ(田中 良昭)	40
哲学(湯浅 正彦・片桐 茂博)	40
論理学(円谷 裕二・川戸 好武・ 中村 友太郎)	41
倫理学(國嶋 一則)	41
文学(田中 徳定)	41
文学(経済学科)(平 敏功)	41
文学(商学科)(平 敏功)	41
歴史学(立川 章次)	41
歴史学(木槻 哲夫)	41
歴史学(久保田 真継)	41
社会分野	
法学憲法(竹花 光範)	42
法学憲法(茂野 隆晴)	42
法学憲法(馬越 道夫)	42
政治学(浦田 早苗)	42
社会学(橋爪 敏)	42
社会学(岩上 真珠)	42
統計学(飯塚 仁之助)	42
地理学(内藤 正典)	43
地理学(玉井 建三)	43
文化人類学(加藤 正春)	43
自然分野	
自然科学概論(漆原 和子)	43
自然科学概論(宇和川 正人)	43
自然科学概論(篠原 正雄)	43
数学(宮寺 功)	43
数学(斎藤 浩三)	43
心理学(茅原 正)	43
心理学(森山 敏文)	44
心理学(鈴木 順一)	44
心理学(井上 孝代)	44
心理学(坂原 明)	44

保健体育科目

保健体育理論(大石 武士)	45
保健体育理論(三幣 晴三)	45
保健体育理論(光永 吉輝)	45
保健体育理論(再クラス)(三幣 晴三)	45
保健体育理論(再クラス)(森本 葵)	45

随意科目

比較思想特講(窪 徳忠)	46
英会話Ⅱ(J.ウェルズ・J.G.ギャリソン・ T.J.コーガン・P.A.ベンディネリイ)	46
英語LLⅡ(T.J.コーガン・見上 晃)	46
ドイツ語F(吾妻 雄次郎)	46
ドイツ語FLL(初級)(小林 佳世子)	46
ドイツ語FLL(中級)(野島 利彰)	46
フランス語F(佐伯 隆幸)	46
フランス語FLL(初級)(松岡 宏一)	46
フランス語FLL(初級) (マドレーヌ・マルタン)	47
フランス語FLL(中級) (マドレーヌ・マルタン)	47
中国語F(釜屋 修)	47
中国語FLL(初級)(果 荃英)	47
中国語FLL(中級)(羅 濛明)	47
スペイン語F(佐藤 玖美子)	47
スペイン語FLL(初級)(ホワン・ナバロ)	47
スペイン語FLL(中級)(ホワン・ナバロ)	47
ロシア語F(杉山 秀子)	47
ロシア語FLL(初級)(タチアナ・野村)	48
ロシア語FLL(中級)(タチアナ・野村)	48

基礎教育科目

経済学概説(徳永 俊明)	49
経済学概説(古沢 紘造)	49
経済学概説(光岡 博美)	49
経済学概説(金子 ハルオ)	49

専門教育科目

1年次必修科目(商学科)	
会計学総論(飯岡 透)	50
会計学総論(加藤 利安)	50
1年次選択科目(経済学科)	
会計学総論(中原 章吉)	50

会計学総論(竹林 代嘉).....	50	商業政策(岩下 弘).....	58
2 年次必修・選択科目		マーケティング(曾我 信孝).....	58
経済原論Ⅰ(齊藤 正).....	51	貿易論(古沢 紘造).....	58
経済原論Ⅰ(阿部 弘).....	51	貿易実務(太田 正孝).....	58
経済原論Ⅰ(金子 ハルオ).....	51	証券市場論(澤田 精次).....	58
経済原論Ⅱ(浅野 克巳).....	51	保険論(石名坂 邦昭).....	58
経済原論Ⅱ(浅田 統一郎).....	51	交通論(石井 彰次郎).....	59
経済原論Ⅱ(前期)(渡辺 和則)		商品学(塚原 博).....	59
(後期)(荒木 勝啓).....	51	経営管理論(百田 義治).....	59
経済政策(石井 啓雄).....	52	労務管理(石井 脩二).....	59
経済政策(宮脇 孝久).....	52	財務管理(野口 祐).....	59
経済史(安元 稔).....	52	原価計算論(加藤 利安).....	59
商学総論(大吹 勝男).....	52	会計監査論(飯岡 透).....	60
経営学総論(寺中 良二).....	52	管理会計論(中原 章吉).....	60
2 年次選択科目		税務会計論(市川 深).....	60
統計原論(吉野 紀).....	52	民法二部(青野 博之).....	60
商業史(山田 勝).....	53	商法一部(相原 隆).....	60
簿記論(竹林 代嘉).....	53	商法二部(関口 雅夫).....	60
簿記論(鉄尾 健一).....	53	労働法(深谷 信夫).....	61
財務会計論(遠藤 孝).....	53	経済法(江上 勲).....	61
憲法(齊藤 寿).....	53	原書講読(英)(浅田 統一郎).....	61
民法一部(山崎 敏彦).....	53	原書講読(英)(浅野 克巳).....	61
3・4 年次選択科目		原書講読(英)(井上 隆).....	61
経済学史Ⅰ(福原 好喜).....	54	原書講読(英)(石井 脩二).....	61
経済学史Ⅱ(長谷川 義和).....	54	原書講読(英)(岩下 弘).....	61
価格理論(前期)(渡辺 和則)		原書講読(英)(大吹 勝男).....	61
(後期)(荒木 勝啓).....	54	原書講読(英)(小林 英夫).....	62
国民所得論(吉野 紀).....	54	原書講読(英)(齊藤 正).....	62
景気変動論(西村 允克).....	54	原書講読(英)(曾我 信孝).....	62
日本経済史(古庄 正).....	54	原書講読(英)(中原 章吉).....	62
経済地理(上坂 修夫).....	55	原書講読(英)(長谷川 義和).....	62
国際経済論(徳永 俊明).....	55	原書講読(英)(百田 義治).....	62
農業政策(浅田 喬二).....	55	原書講読(英)(古沢 紘造).....	62
工業政策(劔持 通夫).....	55	原書講読(英)(三井 逸友).....	62
財政学(西村 紀三郎).....	55	原書講読(英)(光岡 博美).....	63
財政政策(里中 恆志).....	55	原書講読(独)(福原 好喜).....	63
金融論(渋谷 隆一).....	56	原書講読(仏)(清水 卓).....	63
国際金融論(波形 昭一).....	56	原書講読(中)(小杉 修二).....	63
銀行論(本間 靖夫).....	56	原書講読(ス)(徳永 俊明).....	63
社会政策(光岡 博美).....	56	原書講読(ロ)(山縣 弘志).....	63
労働経済論(山本 補將).....	56		
中小企業論(前期)(大林 弘道)		演習Ⅰ(2年次選択)(安元 稔).....	63
(後期)(三井 逸友).....	56	演習Ⅱ(3年次選択)(安元 稔).....	63
人口論(森岡 仁).....	57		
教育経済論(谷敷 正光).....	57		
日本経済論(森 武麿).....	57		
アジア経済論(小林 英夫).....	57		
中国経済論(小杉 修二).....	57		
アメリカ経済論(萩原 伸次郎).....	57		
ヨーロッパ経済論(清水 卓).....	58		
ソビエト経済論(山縣 弘志).....	58		

一般教育科目

人文分野

宗 教 学 I

末 光 愛 正

宗教学に対する一般的な教養知識を概説し、宗教とは何かということを講義する。後期には仏教の教義歴史を中心に進める。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

池 田 魯 参

仏教や禅の文化は、現代社会でも様々な形で影響を及ぼしている。講義では、世界の諸宗教と比較しながら、禅仏教の特質を明らかにし、広く宗教の意味を考察したい。21世紀に向けて、宗教の意義が問われている今日、流動する国際的な宗教文化の状況をも視野に入れ、本学の建学の根本である禅仏教が、どのような問題解決の方法を示すことができるか、今後の展望を考察し、受講生諸君の自己究明と自己実現のために、少しでも役立てて頂ければ幸いである。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学Ⅰ』（更生社）
¥1,950

〔参考書〕 駒大宗教学会『宗教学ハンドブック』（世界書院）¥1,400

宗 教 学 I

田 上 太 秀

前期は宗教としての仏教の思想と歴史をインドに限定して講義し、後期は宗教とは何かについて宗教学の立場から講義する。

〔参考書〕 田上太秀著『禅の思想』（東京書籍）
『仏陀のいたかったこと』（講談社）

宗 教 学 I

吉 津 宜 英

まず始めに宗教学は人文科学に属する学問体系であることを確認しておきたい。つまり、これは文学や歴史などと同様に人間のあり方、人間の生き方を考えるのである。そして、この世界の中に本当に多くの宗教が歴史上出現し、また現存しているという事実は、それだけ人間存在の複雑さ、深さ、そしてその歴史の重さを表わしている。この講義は世界の諸宗教の多様性を知り、その中で仏教の立場と特色を把握していくことを目的とする。特に日本の歴史の中で仏教の果たした役割を考え、現代の我々がこの政治経済社会の中でいかにその伝統を認識するかをも問題にしたい。最後のテストの他に前後期一回づつ小論文の作成を課するつもりである。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

袴 谷 憲 昭

現今の知識人の中には、美しい自然の日本を謳歌し、その中で育った「和」の思想を、欧米の破壊主義に対する、我が国独自の平和思想として持ち上げんとする時局迎合的発言が強まってきている。そういう風潮の中で、「山川草木悉皆成仏」のような言葉が、仏教を代表する深い思想でもあるかのように為政者の口から洩れ出るようにすらなっているが、本当の仏教は、そういう考え方そのものに批判的であったのだということを具体的に指摘していくことにしたい。そのためには、今日的宗教学を準備したマックス＝ウェーバー流の考え方や、没価値的シンクレティズムを温存する宗教学そのものも論理的に批判していかなければならないと思っている。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

〔参考書〕 マックス・ウェーバー著、尾高邦雄訳
『職業としての学問』（岩波文庫）

宗 教 学 I

片 山 一 良

宗教とは何か？ その構造と機能とは何か、宗教が個人

にそして社会にどう関わっているか、そうした事柄を我々の身近な例から明らかにしつつ、広く大人の間ととしての宗教学を考えてみたい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道Ⅰ』（東京書籍）

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書籍）
『仏教のおしえ』（東京書籍）

宗 教 学 II

中 野 東 禅

自己が存在するというのはどういうことだろうか。それは人間のご都合以前の事実として与えられているものであるといえよう。その上で自己の意識活動や人間関係がなりたっている。禅とはそうした自己存在の本質を見きわめ、そこへおちついてゆくものである。

近代の合理主義精神はここ十年ほどの諸分野におけるゆきづまり状況から、超合理なるもの霊的なものへと逃避しようとしている。しかし、その背景には現代社会の不安や恐怖心がある。人間的合理主義で胡塗するのではなく、超合理なる霊的世界に逃避するのではなく、存在の本質に出会う禅を学んでゆきたいものである。

〔教科書〕 山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）
¥ 1,950

宗 教 学 II

永 井 政 之

宗教学Ⅰのあとを承け『禅』について、その歴史や思想を学びつつ、ますます複雑化する現代に宗教、就中、

禅はどのような面でその可能性を持ちうるのか。学生諸君とともに考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学Ⅱ』（更生社）¥ 1,950

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

伊 藤 秀 憲

インドにおける禅定、中国での禅宗の成立と発展、そして日本への流伝（特に道元禅師とその門流を中心に）と言った、禅の歴史を通観し、そこに現われた禅匠たちの生き方から、禅の人生観・人間観等を考察したい。

〔教科書〕 『宗教学Ⅱ』（更生社）¥ 1,950

宗 教 学 II

大 谷 哲 夫

本講座は「宗教学Ⅰ」を基盤として、仏教における禅の地位、その歴史、公案の禅と只管打坐の禅、現代思想と禅等々を概説し、特に現代人の新しい精神生活のよすがとしての禅仏教の思想を、適宜、禅匠の生き方・その言葉なりを通して理解し学んでゆくことに主眼をおく。

〔参考書〕 適宜に指示する。

宗 教 学 II

田 中 良 昭

宗教学Ⅰをふまえ、宗教としての禅にはいかなる特色があるか、その概要と歴史、実践の各方面から講ずる。

〔教科書〕 『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲 学

湯 浅 正 彦・片 桐 茂 博

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

論 理 学

円谷 裕二・川戸 好武
中村 友太郎

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探求する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

文 学

田 中 徳 定

説話文学、昔話、民話の世界が捉えた人間像とその周辺について考える。また、中世の説話文学に題材を求めた芥川龍之助の文学作品について、説話文学と比較検討を行い、芥川の追求したものについて考えていく予定。

〔教科書〕 『羅生門・鼻』（新潮文庫）¥ 240

文 学（経済学科）

平 敏 功

『万葉集』の歌をよむ。

前期は主として初期万葉の歌、後期は主として大伴家持などの作品をよみながら、文学の発生と生成、歌に示された〈類〉と〈個〉などの問題点を示し、解説してゆきたい。

〔教科書〕 小野 寛著『万葉集抄』（笠間書院）
¥ 1,000

〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表 上代文学史』（笠間書院）¥ 900
資料

文 学（商学科）

平 敏 功

『万葉集』の「よみ」を通して、

(1) 作品の成立

(2) 歌人の形成

の二点を中心に考えてみたい。

(1)、(2)とは、言わば「歌」によって達成の示された、継承と創意の事である。講義では、毎回1テーマを提示し、それが完結するような形で進めたいと思う。

〔教科書〕 小野 寛著『万葉集抄』（笠間書院）
¥ 1,000

〔参考書〕 金井清一・小野 寛編『年表 上代文学史』（笠間書院）¥ 900
資料

歴 史 学

立 川 章 次

明治維新史の講義。江戸幕藩体制の崩壊への過程について論述し、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への推移について講義する。

歴 史 学

木 槻 哲 夫

日本史上の、いくつかの問題を紹介しつつ、史料講読をまじえ、日本社会の発展について考察したい。教科書は特定しない。

歴 史 学

久 保 田 真 継

日本の歴史発展を、中世（鎌倉・南北朝・室町・戦国）から近世初期に焦点をあわせ、とくに商業史を中心とする概説によって理解することにつとめたい。なお、とくに教科書等は指定しない。

社会分野

法学憲法

竹花光範

一年をほぼ二分し、前半は「法とは何か」について、後半は「日本国憲法の性格と特色」について、講義を行う。

〔教科書・参考書〕 講義の中で述べる。

法学憲法

茂野隆晴

平素の日常生活のなかでは、余り意識されることがないかもしれないが、われわれは多種多様な法制に囲繞されており、ときにそれによって重大な影響を被ることも少なくない。こうした状況のもとで、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といってよい。

法律は、ともすれば無味乾燥なものと理解されている向きがある。そこで、成べく身近な問題に照して平易に講述していく。

講義は、前半で、わが国の法制の歴史の変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法の特性に及ぶ。後半では、教養としての憲法を念頭におき、憲法全般の解釈をおこなう。

〔教科書〕 山口嘉三・大久保治男編『法学要説』
(芦書房)

〔参考書〕 適宜指示します。

法学憲法

馬越道夫

前期は憲法の基本的人権と統治機構と法社会学を、後期には民法・刑法・民事訴訟法・刑事訴訟法・商法・労働法を講述する。限られた時間を有効に使うため受講者は必ず予習をすること、また六法全書を必ず持参すること。

〔教科書〕 末川 博編『法学入門』(有斐閣双書)

〔参考書〕 高窪利一・高窪貞一編『現代の法学』
(蒼文社)

政治学

浦田早苗

現実の政治を分析し、誤りなく把握する上で必要な基

礎知識をとり上げる。政治学の基礎概念、政治思想、現代デモクラシーの特徴などを中心に考察していく予定である。

〔教科書・参考書〕 開講後、追って指示する。

社会学

橋爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(新版)
(学文社)

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』
(学文社)

社会学

岩上 真珠

社会学の基本的な概念である集団、組織、制度を中心に、個人と社会の関係について論ずる。講義では、できるだけ身近なテーマを取り上げながら、社会学的なものの見方を身につけてもらうことを目指す。

〔教科書〕 『テキストブック社会学(1)入門社会学』
(有斐閣ブックス) ¥1,200

〔参考書〕 J. ボワセベン著『友達の友達』(未来社) 1986 ¥4,000

統計学

飯塚 仁之助

第Ⅰ編 社会統計学の発達過程

第Ⅱ編 社会統計理論

第1章 社会統計学の意義、第2章 統計集団、

第3章 大数の法則、第4章 大量観察法

第Ⅲ編 統計分析法

第1章 記述統計

第1節 平均、第2節 散布度、第3節 歪度、

第4節 指数、第5節 相関

第2章 推測統計

地 理 学

内 藤 正 典

人文地理学の基本的な問題を扱う。

- I. 人間と環境
- II. 都市
- III. 農村

大学での地理学は、さまざまな国や地域に関する事柄を暗記してもらうためのものではない。上記のI, II, IIIにあげたような大きなテーマを、それぞれどのように把握していくかを考えるためにある。但し、具体的な地域についてそれらを掘り下げることはする。その場合、恐らく皆さんにとって最もなじみのうすい中東を例にあげて考えている。

地 理 学

玉 井 建 三

地理学は地球の内的・外的作用を総合的にとらえ、一定の法則性を見出し、それが人間とどのようにかわりを持っているかを論考するものである。したがって、地理学の終局的目標の一つは、人間の生活様式を究明することである。特に人間が如何に自然を克服し、又はそれに適応した生活を展開しているかを具体的に地域をとりあげて考察して論じてみたい。

文化人類学

加 藤 正 春

文化人類学の基礎的概念、方法、理論等を講義する。各地の民族の具体的な生活事実をできるだけ紹介しながら、人類文化の多様性と、この学問の基本的視点の理解に努める。日本の伝統的社会・文化の紹介もおこなう。

自 然 分 野

自然科学概論

漆 原 和 子

自然科学史・技術史を通じて、人間が自然へどのように働きかけてきたかを学ぶ。さらに現在、高度の科学・技術をもって自然へ働きかけることにより、どのような問題をかかえているかをも考察する。

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源、とくに、水資源、農林海洋、エネルギー資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかわりあいについて考察する。

〔参考書〕 その都度紹介する。

自然科学概論

篠 原 正 雄

古代から近代を経て現代に至る科学の歴史をたどり、自然科学の方法について学ぶ。また、今日の自然科学をめぐるさまざまな問題を考察する。

〔参考書〕 『自然科学概論』（東京教学社）

¥ 1,800

数 学

宮 寺 功

微分積分を中心として講義を行う。はじめて微分積分を学ぶ人にも十分理解できるよう、その考え方の大要を丁寧に解説する。

〔教科書〕 大学自然科学研究会『改版 大学の数学』（東京教学社）

数 学

斎 藤 浩 三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデータを統計的手法によって整理・集約し、図表化することによって、はじめて情報として役に立つようになる。データの集計・整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、推定、標本調査などの基本事項について、随時演習を行いながら講義する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

心 理 学

茅 原 正

心理学は、人は何をいかに感じ、考え、行なうかということ、すなわち、人間の心とあらゆる行動の原理法則を明らかにする科学である。人間は本来、自然的存在であると同時に社会的・文化的な存在であり、心理学は、

まさに人間活動の全領域を研究の対象とするものである。

本講では、現代心理学の主要な理論を平易に説明し、学生諸君が、複雑なる人間関係にある自己や他人を理解するための指針を得るよう、ともに学んでゆきたい。

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

森 山 敏 文

昨今、「いじめ」や「自殺」という問題が青少年の心の危機を象徴的に示すものとして話題になっている。このような現象は、現代が「心の時代」と呼ばれる由縁であろう。この「心の時代」をどのように生きていくかが、現代青年のひとつの課題であるといえる。

本講義では、心理学というパラダイムから、“人とは何か”について共に考え、共に問う機会をつくっていききたい。この場合、心理学の中でも臨床心理学の領域については、具体的な事例を紹介しながら、やや専門的なニュアンスを持った内容へと深まりを持たせたいと考えている。

〔教科書〕 柴田出著『心の自己分析』（有斐閣）

〔参考書〕 中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

鈴 木 順 一

自己理解のために、自分自身の心や性格をみつめてみる。最低5冊以上の参考文献を読み、自己分析・自己成長記録を提出し発表しなければならない。この授業の単位を取ることは極めて難かしく主体的学習意欲が望まれる。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

〔参考書〕 授業内で指示します。

心 理 学

井 上 孝 代

現代の心理学に含まれる内容としての「生理」、「心理」、「感覚」、「知覚」、「学習」、「発達」、「人格」、「社会」など、多岐にわたる分野について、図表等を用い、具体的に講義する。さらに、現代の社会風潮を鑑み、臨床的領域も講義対象とする。

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

¥1,500

心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの見方、考え方がどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

大 石 武 士

体育概念及び保健的な面について。

保健体育理論

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容をとりあつかう。

保健体育理論

光 永 吉 輝

健康・体育に関する一層の理解を深めるとともに，身体・運動・障害という分野において講義を行なう。

〔教科書〕 授業時に説明。

保健体育理論（再クラス）

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容をとりあつかう。

保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

体力づくり

＜若年層における体力づくりの必要性＞

＜体力のメカニズム＞

＜体力づくりの方法＞

＜体力づくりにかかわる疲労の問題＞

＜疲労の判定法＞

オリンピックゲーム

＜歴史＞

＜問題点＞

＜その将来＞

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

随 意 科 目

比較思想特講

窪 徳 忠

中国の文化、とくにその信仰・習俗のうちから道教に関連の深いと思われるものを選んで、日本で現行されている信仰・習俗との比較を扱ってみたい。地域的には沖縄や奄美地方が中心となるが、その他の地方にも言及する。なお、必要に応じてスライドを使用して、一層の理解を深める予定である。

〔参考書〕 窪『中国文化と南島』（第一書房）
¥2,500

英 会 話 II

J. ウェルズ・J. G. ギャリソン
T. J. コーガン・P. A. ベンディネリ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

英 語 LL II

T. J. コーガン・見上 晃

英語LLIのアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LLIを履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

ド イ ツ 語 F

吾 妻 雄次郎

主として一、二年度でドイツ語を履修した学生諸君を対象に、第二次大戦前後の短編小説を通して、ドイツの特異性の一端に触れ、同時にドイツ文法の更に包括的な習得につとめる。

〔教科書〕 プリントによる教材使用。

ドイツ語 FLL（初級）

小 林 佳世子

ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 FLL（中級）

野 島 利 彰

週一回という限られた時間内で、LLを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にFLL（初級）をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕 教場で指示する。

フ ラ ン ス 語 F

佐 伯 隆 幸

やさしいフランス語の教材を読みつつ、現代のフランス社会、文学のこと、また演劇のことなどを日本と対照させつつ講ずる予定です。教科書に類するものは教場で指示します。

フ ラ ン ス 語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

“Entrée Libre”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話することに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむこ

とができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕『Entrée Libre I』

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的な会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Avec Plaisir』Emission I より。

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『Entrée Libre I』

中国語 F

釜屋修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための共学の間である。最新の文学素材(短篇小説・評論文)を用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてる。あわせて現代中国への理解の増進をも試みたい。

〔教科書〕開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕その都度指示する。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕教場でプリントを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

佐藤 玖美子

スペイン文学と言えば、誰もまず思い浮かべるのはセルバンテスのドン・キホーテであろう。しかし、スペイン語を勉強する学生でも、この有名な作品を原文で読むものは案外少ない。本年度のスペイン語Fでは、現代語に書き改めたテキストを参照しながら、この世界の名著をできるだけ味わってみたいと思う。

〔教科書〕プリント

〔参考書〕ハイメ・フェルナンデス著『ドン・キホーテへの招待』(西和書林)

スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履習している学生の受講を望みます。

スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度I.F.初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるため平易な読みもの——文学新聞の抜すい、諷刺漫画(クロコ

ディル), スプートニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

ロシア語 FLL (初級)

タチアナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

ロシア語 FLL (中級)

タチアナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

基礎教育科目

経済学概説

徳永俊明

学問のもっとも基本的な目的は、「ぼくって何?」、「私はだれ?」という問題を解くことにあります。みなさんは、経済学の学習を通してこの問題の解明をすすめていきます。

そこで、この講義では、みなさんが経済学の専門的な学習の道を進むためのおおまかな“地図”を描くことを目標とします。私は、この“地図”を、私たちが生きていくこの世界が、一人の人間として、また人類の一員としての私たちに解決をせまっている問題を一つひとつ発見していくことによって作っていきたいと思います。

経済学概説

吉沢紘造

市場、消費、成長、所得分配、国家介入といった経済の主要なメカニズムを平易に解きあかすことによって、今日における経済学の基本的概念を理解できるよう努める。記号学、人類学、社会学を援用、総合的人間科学としての経済学という視角から、経済成長が生み出した環境破壊、不平等などの諸問題を個別に検討していくことにしたい。経済学がごく自然に学生諸君の関心に向けて浸透していき、経済を見る眼が養われることを目指す。

経済学概説

光岡博美

この講義は経済学への入門として、私達の日常生活の諸問題を解説しながら、経済学の立場から現実の社会をより深く理解していく力をつけていくことを目的としています。教科書は使用しませんが、講義のなかで諸君に読んでほしい参考書や新刊書なども紹介していきたいと思っています。

経済学概説

金子ハルオ

大学受験というトンネルをくぐり抜けてきたばかりの

諸君に、心機一転、高校の「社会科」では学べなかった「科学としての経済学」の魅力を会得してもらうことに講義のねらいをおく。そのために、資本主義の歴史的発展過程をたどりつつその分析原理の要点を説明し、他方現代の身近な事例を豊富に示し、経済学への興味と基礎知識を得てもらうようにしたい。なお、黒板を大いに使って講義するので、自分に適した受講ノートをつくってほしい。指定の教科書は、それさえ読めば受講しなくてもすむ本というものではなく、講義と各自のノート作成のために共通して利用すべき本というものである。最初の授業時間に、各自受講のための大学ノート（ルーズリーフは不可）を持参して、検印を受けること。

〔教科書〕 金子ハルオ編著『資本主義の原理と歴史』（青木書店）¥1,500

専 門 教 育 科 目

1 年次必修科目（商学科）

会 計 学 総 論

飯 岡 透

この講義では、会計学の基礎的な理論と計算技術を総合的かつ体系的に教授する。すなわち、前半では会計学の意義・役割・歴史などを概説したのち、会計の技術的基盤をなす複式簿記の原理と記帳技術を修得し、簡単な貸借対照表と損益計算書を作成する能力を養成する。ついで後半ではわが国の現行会計制度、つまり商法会計制度、証券取引法会計制度および税法会計制度を概説し、併せて今日問題となっているインフレーション会計、国際会計、情報化社会における会計などを取り上げる予定である。

本講座は2年生以上で履修する会計学関係の諸講座の前提科目となるものである。

〔教科書〕 長谷川・飯岡・島崎共著『企業会計の基礎』（中央経済社）¥2,900

〔参考書〕 同文館編『企業会計諸則集』（同文館）
¥1,500

会 計 学 総 論

加 藤 利 安

企業会計は、記録と計算の技術的体系であると同時に、今日それは、我が国の経済社会の中で一つの制度として存在している。そこでここでは、平易に解説した理論書を使用し、企業会計の役割や機能について、その入門的かつ総論的な知識の習得を目指して講義するつもりである。講義はノートで行う。試験は、中間と期末と2回行う予定である。

〔参考書〕 江村 稔著『企業会計総論』（森山書店）
浅羽二郎著『財務会計論』（森山書店）

1 年次選択科目（経済学科）

会 計 学 総 論

中 原 章 吉

会計学に関する科目はかなり広範囲にわたっている。この講義ではまず、会計学について、その内容を全般的に説明することを目的とする。簿記はもちろんのこと、財務会計、管理会計など多岐にわたる内容を概観しようというものである。

〔教科書〕 講義時間最初に指示する。

会 計 学 総 論

竹 林 代 嘉

本講義では、企業会計を中心に、会計学全般に関する基礎的知識を学んでもらう。会計とは、経済事象を具体的な数字で表現することであるが、特にその技術的基盤となっている複式簿記の学習に、ある程度の時間をかける予定である。また、会計が我々の社会で利用されている状況やその歴史などもとり上げる。

〔教科書〕 長谷川・飯岡・島崎著『企業会計の基礎』（中央経済社）

〔参考書〕 簿記教育研究会編『複式簿記の基礎知識』

2年次必修・選択科目

- 〔教科書〕 横山正彦・金子ハルオ編『マルクス経済学を学ぶ』〔改訂新版〕(有斐閣) ¥1,800
〔参考書〕 金子ハルオ編著『資本主義の原理と歴史』(青木書店) ¥1,500

経済原論Ⅰ

齊藤 正

下記のテーマに沿って講義する。

1. 経済学の対象と方法
2. 経済学の体系
 - ①商品と貨幣 ②剰余価値と資本蓄積 ③資本の循環と再生産 ④利潤と価格 ⑤恐慌 ⑥利潤の分化 ⑦国家・外国貿易・世界市場
3. 現代資本主義論
 - ①独占資本主義論 ②現代資本主義論をめぐって〔参考書〕 富塚良三『経済原論』(有斐閣)

経済原論Ⅰ

阿部 弘

「資本と国家」のテーマで講義をすすめて行く。

- 内部：第1部 商品と資本
第2部 階級と国家

現在のわたしたちの生活の中で、一見「自由競争」に基づく価格競争や企業設立、国際貿易などが行なわれているかに見えるが、しかしまた日常的に「非自由」が叫ばれ「国家統制」がなされる。わたしたち「個人」の存在についてもそうである。これは「資本」がもっている本質からくるのであるから、今年度はこの点に焦点を当てて問題の解明を試みる。「国家資本」なども取扱っていきたい。

経済原論Ⅰ

金子 ハルオ

資本主義および独占資本主義の経済的構造の分析原理を体系だてて説明することにより、経済科学的に社会を見る眼を鍛えてもらうことが、本講義の内容と目的である。他方、分析原理が資本主義の歴史的発展過程と一定の不可分な対応関係にあることを示し、経済学がすぐれて歴史科学であることを明確にしたい。なお、黒板を大いに使って講義するので、自分に適した受講ノートをつくってほしい。指定の教科書は、それさえ読めば受講しなくてもすむ本というものではなく、講義と各自のノート作成のために共通して利用すべき本というものである。最初の授業時間に、各自受講のための大学ノート（ルーズリーフは不可）を持参して、検印を受けること。

経済原論Ⅱ

浅野 克巳

われわれの身近に生起するごく日常的な経済問題を取り上げながら、その原因および対策を考える上で、方法となるべき経済学の諸理論を、できるだけ平易に解説してゆく予定です。したがって学生諸君は、新聞や雑誌にもよく目を通し、経済社会の現代的諸問題について強い関心と興味を持たれるよう希望します。授業は必ずしも通常の順序に従って、ミクロ理論とマクロ理論に分けて進めるという方法はとりませんが、最終的には経済学の基礎理論がマスターできるよう配慮します。

特定の教科書の代りに、若干の資料等を利用したいと思いますが、詳細は最初の講義の際説明します。

経済原論Ⅱ

浅田 統一郎

本講義では、以下の順序に従って近代経済学の基礎知識を体系的かつ平易に解説する。

- I. マクロ経済学
 1. 国民所得の概念 2. 国民所得決定の理論
 3. 貨幣と利子率 4. 失業とインフレーション
- II. ミクロ経済学
 1. 企業行動の理論 2. 消費者行動の理論
 3. 市場均衡の理論 4. 不完全競争の理論

〔教科書〕 浅野栄一・森 義隆編『現代経済学講義』(新評論)

経済原論Ⅱ

(前期) 渡辺 和則
(後期) 荒木 勝啓

マクロ理論およびミクロ理論の基礎を講義する。

- I. マクロ理論
 1. 貨幣数量説
 2. 国民所得決定の理論
 3. 乗数理論
 4. IS・LM分析
- II. ミクロ理論
 1. 限界分析
 2. 消費者選択理論
 3. 独占理論
 4. 生産理論

経済政策

石井啓雄

この講義では、客観的過程たる経済過程と経済政策の主体たる国家の間の基本的関係をふまえつつ、第一に、資本主義社会における経済政策の展開を発展段階と関連づけて講義する。その上で第二に、主として日本の現実によりながら、現代における経済政策の主要問題について講義する。

講義はノートにより、口述を中心とするが、参考書・必読文献等については、最初の講義の際および講義の進行状況に応じて随時指示する。

経済政策

宮脇孝久

我々がなにか目的をもつと、つきにはそれをどのような方法で実現しようかと考える。経済活動でも、なんらかの目的を達成するには、現実根ざした方策が必要となる。戦後、国家がしだいに経済に力を入れる比重をたかめるにつれ、経済政策もおおいに注目されてきた。だから、その対象はかなり大きな経済単位となる。国家にはまた、大企業や中小企業、労働者、消費者の団体など、さまざまな利害グループがからんでいる。したがって、誰が、何のために、どのようなやり方で、という見方も欠かさない。

講義では、戦後の日本経済の変化をふまえ、もっとも特異な産業政策を中心にして、独禁政策、景気対策、貿易政策などにも注意をはらいながら、考えていきたい。

〔教科書〕 北田芳治編『貿易摩擦と経済政策』
(大月書店) ¥2,800

〔参考書〕 林直道『現代の日本経済』〔第4版〕
(青木書店) ¥1,600

経済史

安元稔

今年度の講義の前半では、まず「経済史」とは何か——何を研究対象とし、如何なる方法で分析するのか——について考え、「経済史」という学問がどのように発展して来たのかを講義する。次いで、ヨーロッパと日本およびその他の地域の経済発展の相違を概観し、ヨーロッパ経済史を学ぶ意義を考える。最後に産業革命と工業化社会の成立がわれわれにとってどのような意味をもつかをみて行く。

〔教科書〕 石坂昭雄他著『新版 西洋経済史』
(有斐閣) ¥1,400

〔参考書〕 I. ウォーラスティン著、藤瀬浩司他訳
『資本主義世界経済』〔上〕(名古屋大学出版会) ¥2,500

商学総論

大吹勝男

現代商業の分析に必要な商業資本の基礎理論について講義する。

経営学総論

寺中良二

経営学には大別して企業論と管理論という二つの学問領域がある。企業論の展開として個人企業、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社(初期・近代・現代)、公企業、ソ連型中央集権的社会主義企業、ユーゴ型自主管理的社会主義企業について体系的に講義を展開する。特に資本主義企業の最も支配的企業形態としての株式会社制度については、証券市場制度成立による出資資本の回収機構、擬制資本範疇としての株価形成の論理と算式、株式会社の支配機構およびそれに基づく財務技術の狙いと事例、現代株式会社における経営者支配をめぐる論争、その他について説明する。また、自主管理制度については、マルクスが充分に解明できなかった新しい社会主義社会における労働関係の展望と21世紀に多数を占める知的労働者による自主管理的経営の潮流と内容を明かにしたい。さらに、管理論においては、ティラー、フォレット、バーナード、ドラッカーの代表作品の内容を要約的に紹介しながら、先進資本主義の独占形成期に成立した管理技術の本質と変遷、管理社会における人間の状況認識、全体主義批判の思想を根底にもつドラッカーの組織原理や労務管理などに言及する。以上二つの領域とともに、経営学という学問が、人間の幸福に少しでも役立つればと思う。尚、経営の国際化に対応して、専門用語(経済英語・経営英語)の履修者習得にも力を入れたいと考えています。

2年次選択科目

統計原論

吉野紀

現代の統計学の基本は推測統計学にあるという認識に立って講義を進めてゆく。できるだけ多くの時間を回帰分析の説明に当て、現実の経済現象から採られた経済

データを用い、経済分析との接合に意を尽したい。いわば数量的経済分析の基礎ともいべき内容を解くことになろう。『白書』類や各種の公表されたペーパーに多用されている様々な回帰式の理解と評価ができるようになれば、本講の目的の一部は達成されたといえるであろう。
〔教科書〕『現代統計解析』（声書房）

商業史

山田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕山田 勝『近代イギリス貿易経営史（増補版）』（創成社）¥2,300

簿記論

竹林代嘉

「会計学総論」において複式簿記の基本を学んでいるという前提で、授業の進行速度をやや速めたい。目標としては簿記の中級程度、すなわち商工会議所簿記検定試験2級程度を目指して授業を進める。簿記では自分で問題を解くことが大切であり、毎時間、練習帳を併せて使用する。

会計報告書は、企業活動の実態を理解するための鍵であり、経済学を学ぶ人は、基礎技術として簿記を習得しておくことが望ましい。

〔教科書〕東京簿記教育協会編『簿記テキスト』および『簿記問題集』

簿記論

鉄尾健

簿記原理の習得と記帳技術の練習を重点に講義をする。簿記論は、会計学の基礎となる科目であり、その学習には、努力の積み重ねが必要である。

目標としては、簿記の基本原則を基礎から、商工会議所の3級ないし2級程度を目指して授業を進めるが、あわせて、コンピュータ簿記の概要も解説する。

〔教科書・参考書〕開講時に発表する。

財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動一企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動（情報）を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か（その社会的意味・役割）、これを規制する企業会計制度の構造、役割、各国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容、またとくに商法改正動向などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

憲法

斉藤 寿

この講義は、憲法の「しくみ」と「はたらき」について、経済学部の学生向きに、興味深い講義を続けながら楽しく行ないます。

前期には、「人権のしくみ」と「はたらき」について、後期には、「統治のしくみ」と「はたらき」について、講義します。

これらの前・後期の講義は、一年を通じて、極めてユニークに、そして楽しい雰囲気の中で行なわれます。

〔教科書〕拙著の中から、開講の際、選択・指示します。

民法一部

山崎敏彦

われわれの日常生活を規律する民法のうち、総則・物権法を扱う。その際、できるだけ多くの裁判例を示すことによって、よりよく理解していただけるよう努めたい。

聴講にあたっては、教科書のほか、小型のものでよいうから「六法」を持参されたい。

〔教科書〕我妻有泉『民法I』（一粒社）

3・4年次選択科目

経済学史Ⅰ

福原好喜

学問としての経済学の成立は、近代ブルジョア社会の生誕と軌を一にしている。例えばイギリスの重商主義、フランスの重農主義、ドイツの歴史学派、そして又イギリスの古典学派などの経済諸理論は、一方では世界資本主義の発展段階に、そして他方ではその国民経済の編成過程によって色濃く規定されている。経済学の歴史を単に経済学者による経済理論の受容、継承の歴史としてではなく、近代ブルジョア社会の成立、並びにその変容の過程の中で捉えようと思う。近代における経済学の成立・体系化の歩みを、近代資本主義の成立並びに確立過程の中に位置づけるとするのが私の基本的視角である。講義は重商主義段階からマルクス経済学の生誕までを包括する。経済学の歴史とはまさしく近代ブルジョア社会の自己認識の歴史に他ならない。かかる観点から、学生諸君に経済学史に対する心底からの興味を喚起できればと思っている。

経済学史Ⅱ

長谷川義和

現代における経済学の有効性は、いかにとらえることができるだろうか。資本主義を歴史的な過渡期ととらえたマルクスに立ち帰り、さらに、その後の経済学の展開をたどりつつ、考えてみたい。

〔教科書〕 とくに指定しない。

〔参考書〕 授業で紹介します。

価格理論

(前期) 渡辺和則
(後期) 荒木勝啓

〈二部門モデルの展開〉

1. 産業連関表
2. スラッファ・モデル
3. マルクス・モデル
4. フォン・ノイマン・モデル
5. 価格と分配
6. 技術選択の問題

国民所得論

吉野紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を變貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

景気変動論

西村允克

景気循環とは、全体としての経済が「好況」と「不況」という2つの現象を交替的かつ周期的に繰り返すことである。この現象を理論的、歴史的、統計的に説明することが、景気変動論の内容である。現代の景気変動論では、景気変動をGNPの変動として把握するから、講義はマクロ経済学の基礎を簡単に述べ、この基礎の上に主要な景気変動理論を述べていく。

講義は基礎的な考え方に重点を置いて進められるから、この点をしっかり把握すれば、講義内容は極めて平易なものであるが、この点の把握が十分でない、講義はむずかしいと感じるであろう。

日本経済史

古庄正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質
- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕 石井寛治『日本経済史』（東大出版会）
¥1,900

経済地理

上坂修夫

経済地理は、経済諸現象の地域的分析を行う学問である。この講義では、経済現象をいかに地域に即して見るか、また、各地域をいかに全体の経済的構造の中で捉えるかという目を養うことをめざしながら、具体的な各地域の経済的变化と現状の分析を通じて経済現象の地域的構造について学習していく。特定のテキストは使用しないが参考文献についてはその都度指示する予定である。

国際経済論

徳永俊明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要な問題について、その基本的メカニズムの解明をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

- I 資本主義世界経済の歴史（時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ）
- II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済（歴史的位置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出—「援助」・多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、資本主義世界経済の危機、日本経済と世界経済、その他）

〔教科書〕 徳永俊明『世界経済と第3世界』（大月書店）¥1,800

農業政策

浅田喬二

本年度は旧植民地（台湾、朝鮮、「満州」）における日本人大土地所有の検討を行なう。日本人地主は植民地農村の民族的・階級的支配者であり、また、日本帝国主義が植民地を支配するための社会的支柱であった。講義の重点を、(1)日本人の地主化過程、(2)小作制大農場の経営内容、(3)日本地主制の植民地型の特質、(4)日本農業と植民地農業の関係、(5)日本ファシズムと農業・農民問題、(6)満州農業移民論、の解明に置く。

参考文献は講義の最初の時間に知らせる。

〔教科書〕 浅田喬二『日本帝国主義と旧植民地地主制』（御茶の水書房）¥2,500

工業政策

劍持通夫

工業政策とは経済的進歩の条件を明確にする科学である。そこで世界主要産業の形成、構造、発展および衰退

に関する歴史的、経済的諸条件と諸過程を明らかにし、その産業を動かす本質を学びながら、経済発展の法則を体系的に知るといふ工業経済論を主体とし、将来の産業構造の在り方を研究するものである。その講義内容は、第1章 工業経済の意義（産業経済の意義、産業構造、産業組織、市場構造、価格理論、寡占理論、産業理論）。第2章 世界主要産業の成立と発展。第3章 世界主要鉄鋼業の成立と発展。第4章 転換期の世界経済と産業構造の変化。以上を講義案によって実施するが、参考文献はその都度指示する予定である。

〔教科書〕 劍持通夫著『工業経済講義案其ノ一（歴史篇）』（東洋大学内 井上書店）

〔参考書〕 劍持通夫『日本鉄鋼業の発展』（東洋経済出版）
『日本の産業政策』（東大出版会）
『企業戦略とテクノロジー』（東大出版会）

財政学

西村紀三郎

現代のもろもろの財政問題打開の処方箋を書くための論理を具体的な状況理解の下で考えたい。そのために、

- (1) 財政学の発展過程を概説し、その間の財政問題を解説して、財政学が当面している諸問題を提示する。
- (2) 財政学で通常とりあげる原理、原則、法則等を概説し、その現代的意義を検討する。原理は今も妥当か。
- (3) 財政活動の理論的整理把握のため、財政の現実体の理解を図る。財政の制度、歴史、現状等を解説する。
- (4) 財政の理論、制度、歴史、実体の理解にもとづいて財政政策の課題を求める。財政再建は政策課題か。
- (5) 財政再建が唱えられてから久しい。財政再建は果して緊急な財政政策の課題なのだろうか。

〔参考書〕 肥後和夫編『財政学要論』（第3版）（有斐閣）
西村紀三郎『財政学新論』（第二増補版）（税務経理協会）

財政政策

里中恆志

経済生活の中で公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。近代経済学の発展とともに、財政学にもそれを取り入れたかたちでの財政理論が展開されてきた。そしてこれに基づく財政政策は重要な経済政策の一つになっている。財政政策が国民経済に機能するメカニズムについてその理論を検討するとともに、公共支出政策、

公共収入政策についてそれらの基本的な理論及び基準を紹介し、現実の政策に対する判断力を養う。また国民が財政政策の意志形成に参加する方法は民主主義的手続をとおしてであるから、適切な政策の実現のために国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について考察する。

〔教科書〕 講義案による。授業始めに指示する。

金融論

渋谷 隆一

金融論は、信用論を基礎としながら、資本主義の発展段階に応じて信用形態、制度、政策がどのように変化するかを究明する学問である。

本年度は、金融制度とりわけ銀行および庶民金融制度を取り上げる。もっとも金融制度といっても、先進国と後進国とはその発展の態様を異にする。そこで先進国イギリスと後進国ドイツ、日本の相違を念頭におきながら、その性格と機能の変化を中心に講義を進めてゆく。

〔教科書〕 教場で指示。

国際金融論

波形 昭一

前期は、比較生産費理論、国際価値論、外国為替制度、金本位制、国家独占資本主義などを中心に理論・歴史の側面から講義する。後期は、IMF体制、ドル危機、国際通貨制度改革、円問題、南北問題などを中心に戦後から現在にいたるまでの主要な問題点を講義する。

〔参考書〕 授業中に随時指定する。

銀行論

本間 靖夫

貨幣と銀行に関するあらゆる経済現象を科学的に解明する学問が銀行論ですから、その対象は広範囲にわたりますが、講義は以下の4点を中心に行います。

- (1) 貨幣の理論と歴史
- (2) 近代的銀行の成立についての基礎理論
- (3) 銀行の業務と銀行制度
- (4) 銀行経営の理論と実際

〔教科書〕 講義中、適宜指示します。

社会政策

光岡 博美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕 教場で指示する。

労働経済論

山本 補将

労働経済論は、受講者が労働問題の現状を理解する材料を提供する講義です。そのために労働問題の各領域の基礎的概念を説明することから講義を始めます。そのうえで賃金・労働時間・労働市場・労働組合などの諸問題の現状をデータに基づいて提示すると同時に、分析の視点をも説明したいと考えている。こうした講義を通じて、受講者が日本の労働問題に興味をもち、社会科学的視点で労働問題を理解する手助けとなるよう望んでいます。参考文献などは、講義のなかで紹介します。

中小企業論

(前期) 大林 弘道
(後期) 三井 逸友

日本経済の発展が、大企業の経済行動によって駆動されていると考えて間違いない。しかしまた、大企業は、中小企業を動員し利用することなしには、経済成果を自らのものとすることもできないし、存立もあやしくなる。それゆえに、日本経済の展開は、中小企業をめぐる固有の問題と矛盾を持つことになる。本講義は、石油危機以後の低成長期における諸産業の状況を、大企業・中小企業関係を軸に、「過剰」と「調整」の視点から、具体的に考察することにする。ただし、講義は、専ら問題の所在を明らかにすることにし、分析的深化については、関連する文献・資料を紹介して、受講者に委ねることにしたい。

〔教科書〕 佐藤芳雄編著『ワークブック中小企業論』(有斐閣) ¥1,200

車戸 実編『基本経営学全集 第12巻 中小企業論』(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕 中小企業庁編『中小企業白書』〔各年次〕

人口論

森岡 仁

経済学の立場から人口に接近しようとするのがこの講義の特徴である。現実の経済と人口との関係は歴史的にみて人類がこの地球上に出現した時期にまで遡りうるわけで、従って経済学においても非常に早い時期から人口が論じられてきた。この講義では日本を含む世界全体の人口について、古くは人類の起源から、新しきは現在われわれの眼前に展開する人口現象にまで論及し、その間、学としての経済人口学がどのような発展過程をたどってきたかを詳論する。そして最後に、以上の議論をふまえて人口政策を論ずる。

〔教科書〕 大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』
(新評論) ¥ 2,800

〔参考書〕 マルサス, T.R., 森岡他訳『人口論』
(中大出版社) ¥ 15,000

教育経済論

谷 敷 正 光

経済発展に教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦後日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

朝鮮戦争を契機に復活した日本独占資本の産業教育要求とそれに対応した政府の経済政策、教育政策を日本資本主義発展との関連で概観し、戦後の教育政策は産業教育政策として国家、資本の要求にしたがってたえず変化し、支配化されていることを考察する。

〔教科書〕 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)
『中教審と教育改革——世界の教育要求と中教審答申——』(三一書房)

〔参考書〕 高浜介二『現代資本主義の発展と教育』
(汐文社)
石井公一郎『経営者からの教育改革案』
(築地書房)
加藤栄一『情報国富論—産学官協同への展望』(TBSブリタニカ)
H・シュルスキー、溝川良一訳『産業社会の学校と教育』(有信堂)
本庄良邦『産業教育体制論研究』(三和書房)

日本経済論

森 武 麿

日本における国家独占資本主義の成立と展開を歴史的に明らかにする。1920年代の独占資本主義の成立から、1930年代の国家独占資本主義への移行、戦後改革と資本主義の再編、1960年代の高度成長の過程を追いながら、現代資本主義の歴史的諸条件を考察する。これによって現代資本主義の強さと弱さ、労働者や農民の生活変化、日本の権力の特殊性がどのように形成されてきたのかをできる限りわかりやすく説明してみたい。

アジア経済論

小 林 英 夫

この10年、アジアは急激に変わった。この間の急激にしてかつ複雑な変化を一言でいえば、急速なアジアの“近代化”とその“近代化”をおし進める過程で生みだされた日本とアジアの“緊密化”ということになるだろうか。今年度の講義では、1960年代以降今日までのアジアの歴史と現状を回顧しそのなかにふくまれている問題点を検討する。

〔教科書〕 小林英夫『玉碎の島、繁栄の島』
(有斐閣) ¥ 1,000

中国経済論

小 杉 修 二

中国の人口は10億人である。即ち、世界の4人に1人が中国人である。この国は社会主義を標榜し、超大国たらしめる隣国であることによって、世界の中で一定の位置を占め、我国との関係も少なくないものがある。

本講義では、中国のめざしてきたものと中国経済の実態について論じるが、本年度は、中国の社会主義建設が、ソ連モデル、毛沢東モデル、「中国モデル」と三転してきた、その各々の特徴について論ずる。また、それらのモデルが採用され、変遷してきた理由を、(1)中国の採用した国家目的 (2)歴史的条件 (3)地理学的条件の3つの組合せとその変化から説明する。

〔教科書〕 開講時に指示する。

アメリカ経済論

萩 原 伸 次 郎

アメリカ経済の歴史と現状について具体的に講義する。

〔参考書〕 岡田泰男・永田啓基編『概説アメリカ経済史』(有斐閣)

ヨーロッパ経済論

清水 卓

第2次大戦の戦後復興を1950年代の初頭に完了した西欧諸国は、その後、冷戦体制の下で、経済の「高度成長」の過程に入る。IMF・GATT体制の一環として西欧諸国間の金融協力、貿易自由化が進展する。西欧諸国は各々独自の仕方で経済成長政策つまり経済の重化学工業化、経済近代化政策を追求する。EEC共同市場の形成が、このような過程を促進した。

だが、1960年代末からのスタグフレーション、国際通貨危機、資源問題の深刻化によって、西欧諸国は経済危機に陥る。EC諸国は、こうした危機をどのように打開していくのであろうか。第2次大戦後の西欧諸国の経済を分析する中で明らかにしていく。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ソ連邦は第12次五カ年計画期に入っているが、社会主義経済の前途は平坦ではない。80年代の情勢とソ連経済70年の歴史は、我々に常に社会主義の原点に立ち帰り、科学的なアプローチを心懸けることを要求している。

〔教科書〕 講義の中で指示する。

商業政策

岩 下 弘

流通産業に対する公共政策について講義する。

〔参考書〕 その都度指示する。

マーケティング

曾 我 信 孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。

〔参考書〕 講義中に適宜紹介する。

貿易論

古 沢 紘 造

日本の穀物自給率は33%で先進工業国中最低ですが、日本の工業品の輸出攻勢に起因する対米貿易の不均衡を是正するという理由で農産物のさらなる輸入を要求されています。一方東南アジアなどの発展途上国からは、日本は一次産品を主に輸入するだけで工業品を買ってくれないという不満の声が高まっています。本講義ではこうした現代の日本の貿易問題、対外経済関係について取り上げ、日本と世界（欧米、第三世界）の経済的かわりを深く掘り下げて考えてみることにしたいと思います。

〔参考書〕 授業の進度に合わせて、そのつど紹介したいと思います。

貿易実務

太 田 正 孝

本講は海外直接投資とともに、今後とも日本経済にとって重要な柱である外国貿易活動の実務的知識を身につけることを目的としている。貿易契約の成立と契約履行に至るまでの流れ、さらにそれに伴う様々な手続き（保険・運送・外国為替・コミュニケーション）について輸出入両面から包括的に検討を加える。

〔教科書〕 浜谷源蔵著『最新貿易実務』（同文館）
¥3,000

〔参考書〕 朝岡良平著『貿易売買と商慣習』（第三版）（東京布井出版）

証券市場論

澤 田 精 次

証券市場を広く金融市場の一環として捉え、その経済的役割、仕組み、歴史などを、国際的観点を交えて考究する。

〔参考書〕 『図説 日本の証券市場』（財経詳報社）
¥1,300

保険論

石 名 坂 邦 昭

保険はわれわれの経済生活になくてはならない経済施設であり、その歴史は古く、企業活動や家計経済と深く結びついている。保険は企業危険の移転策として、機関投資家として、さらには家計の安定をはかるものとして広く活動している。本講義においては保険の本質、保険の意義、保険の歴史を把握し、さらに生命保険、損害保

険，社会保険等につきわしくみて行くことにより経済学の一科としての保険，さらには経営学の一科の保険を明確にして行きたい。

〔教科書〕 姉崎 他『講案保険総論』（法律文化社）
¥2,200

交通論

石井 彰次郎

交通の概念より始めて，資本主義経済の下における交通をめぐる諸問題の理論的・歴史的解明をする。

〔教科書〕 講義において指示する。

商品学

塚原 博

商品学の対象，研究方法から始め，商品学の歴史，商品の分類，商品の品質，鑑識，貿易と商品，商品と関税，商品と法律等を論じ，企業における商品政策（特に新製品の開発と技術・特許・ノウハウ・商標などの諸問題）を述べ，更に消費者の立場から見た商品について考察する。次に個々の商品について——食系商品・衣系商品・住系商品・化学商品・機械商品（家庭電器，コンピューター，自動車，工作機械，産業機械など），重要輸出入商品，先端技術商品（ニューセラミックス，形状記憶合金，アモルファス合金，超電導材料，高分子材料，複合材料，光ファイバー，新加工食品など）ど実例によって具体的に学んでゆく。

〔参考書〕 上坂西三『商品学概論』（同文館）

経営管理論

百田 義治

経営管理とは経営目的達成のための経営者の実践活動であり，具体的には<計画・指導・統制>の機能，そのための<技術・準則・手法>が経営管理の内容である。我々にとってこのような経営管理を学ぶ意義は，経営管理の技術・技法それ自体を学ぶだけでなく，現代企業におけるその歴史的，社会的な特質を解明し，その意義と限界を科学的に学びとることである。したがって，本講義の課題も，生産，販売，財務，人事・労務，事務などの諸部門管理と最高管理（トップ・マネジメント）で形成される現代企業の経営管理の構造と機能を現代資本主義の特質との関連において科学的に把握することにある。

〔教科書〕 W.G.スコット他『組織理論』（八千代出版）

労務管理

石井 脩二

この講義は，大別二つの部分より成る。一つは，主として労務管理の理論や思想の歴史について論述する部分であり，主としてアメリカにおける発展を追跡する。他の一つは，日本企業における労務管理実践の特質を外国企業のそれとの比較を通じて論述する部分である。焦点は，後者にある。近年の日本企業の海外直接投資の高まりのなかで日本企業の競争力の強さの根源への関心とともに日本的方式の海外移転可能性への関心をも高まっている。国際比較の視点から日本企業の労務管理実践のもつ普遍性・客観性がいかなるものであるかを検討する。

〔教科書〕 未定。

〔参考書〕 島袋編著『労務管理』（中央経済社）
¥2,300
奧林（他）著『労務管理入門』（有斐閣）
¥550

財務管理

野口 祐

開講時に指示する。

原価計算論

加藤 利安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度は，我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして，原価計算の目的，役割，機能について講義するつもりである。またその際に，原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は，中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書，参考書を使用して行う。

〔教科書〕 津曲直躬著『原価計算論講義』（中央経済社）

〔参考書〕 諸井勝之助著『原価計算講義』（東大出版会）

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することにあり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

さらに、時間が許せば、営業報告書、後発事象、粉飾決算、限定監査などにも言及したい。

〔教科書〕 飯岡透著『株式会社会計監査論』（創成社）¥2,900

〔参考書〕 飯岡透編『会計監査講義必携』（創成社）¥490

管理会計論

中 原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕 中原章吉著『企業付加価値会計論』（改訂版）（中央経済社）¥3,000

〔参考書〕 学年始めに指示する。

税務会計論

市 川 深

税務会計論という文字からは、ほのぼのとしたメルヘンもロマンも思い浮かず、誰しも毛嫌いしがちであります。しかし、将来企業経営に携わる人はもちろん、そうでない人でも、税とのかかわりなしに生きられませんし、そのかかわり方によっては、税に無知のために一生に一度や二度呻吟させられることも少なくありません。

本講義では、税法についての大綱を日常生活に関連さ

せ、わかり易く、興味深く展開するようにします。最初は個人に課せられる税、ついで企業に課せられる税について学びます。

税務会計論の講義をとおして、学問と芸術を愛する心が皆さんに醸成されることを念じています。

〔教科書〕 市川 深著『税務会計要論』（中央経済社）

〔参考書〕 講義の都度指示します。

民法二部

青 野 博 之

民法典のうちの第3編「債権」（399条～724条）を本講義の対象とする。むらなく話すことは不可能であるし、またその必要はないと思う。少なくとも、この程度のことは知っていてほしいし、理解してほしいと（私が）思っていることを講義する。実際には、売買契約、賃貸借契約、不法行為（たとえば交通事故）が中心となる。受講生が多くなければ、私から質問をしながら、講義をしたい。もちろん、私から質問をする以上は、受講生からの質問も大歓迎である。少し勇気が必要かもしれないが、わからないことがわかったような気がするときの瞬間を楽しむにして、質問をしてほしい。

〔教科書〕 甲斐道太郎ほか編『新版 民法概説 2 債権』（有斐閣）

商法一部

相 原 隆

株式会社法が講義の中心となります。商法総則の全体像を概説した後に、会社法に進むことにします。ここでは、会社の基本概念からスタートし、株式会社の設立、株式、機関など規定の順序に従い講義を行う予定です。

〔教科書〕 中村眞澄『新会社法 上巻』（成文堂）¥2,200

商法二部

関 口 雅 夫

商法Ⅱは、商法学のうち、「商行為法」および「手形小切手法」を、主要な対象としている。

本講座は、平易を旨とし、商法Ⅱを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識の修得を目的とする。

〔教科書〕 野津 務『商法講義（商行為法）』（中央大学生協出版局）

野津 務『商法講義（手形法・小切手法）』（中央大学生協出版局）

労働法

深谷 信夫

終身雇用制、年功賃金制、企業別労働組合などの特徴づけられた「日本的労使関係」は、徐々にその内容を変化させてきている。

近年の労働政策・労働立法は、そうした方向を、行政的立法的に促進させているといえよう。男女雇用機会均等法・労働者派遣法がその代表的なものである。

講義内容は、以上のような動向を視野に入れ、労使関係と労働法、労働法の構造、集団的労使関係法と個別的労使関係法の主要問題を中心に行なわれる。

〔教科書〕 安枝英紳・西村健一郎著『労働法』
(有斐閣双書ブリマシリーズ 16)

経済法

江上 勲

資本主義が高度化した段階の国民経済は、極度に多様化・分業化した機能を持つ経済主体間の調和は、古典的自由放任主義の経済政策では自動的に達成しがたくなる。経済法は、このような経済社会のなかで基本的に市場経済を維持しながら経済の流れに必要なに応じて国家が介入して全体の調和的発展をはかるための諸種の法から成る。本講座は、かかる経済法の中核をなす独占禁止法の意義を明らかにしたのち、その概要を説明する。講義に当っては基本的事項の理解に努める。

〔教科書〕 江上 勲『経済法・独占禁止法概論』
(税務経理協会) ¥ 3,000

原書講読(英)

浅田 統一郎

近代経済学の文献を読むために必要な英文の読解力を養うことを目的として、下記のテキストを講読する。講義は輪読形式で進めるが、特殊な専門用語については、随時解説する予定である。意欲ある受講者の参加を期待する。

〔教科書〕 E.Roy Weintraub『General Equilibrium Theory』(Macmillan)

〔参考書〕 長谷川啓之編『英和和英経済用語辞典』

原書講読(英)

浅野 克巳

以下の英文テキストを使って、読解力の養成と経済学の基礎理論の勉強を目指す。

〔教科書〕 R.G. Lipsey, P.O. Steiner and D.D. Purvis『Economics』8th ed
(Harper International Edition)

原書講読(英)

井上 隆

現代のアメリカ経済について書かれた文献を利用します。今のところ、Survey of Current Businessの最新版の利用を予定しています。受講者は毎回予習していただくことを希望します。

原書講読(英)

石井 脩二

(経営労働の国際比較)

近年日本企業の海外直接投資の高まりのなかで日本的経営方式の移転可能性への関心が高まっている。従来、特殊とみなされてきた日本の管理方式のもつ客観性・普遍性の発見への関心である。ここでは、この客観性・普遍性を見い出していくための方法として、日英米の労働過程の比較を行なっている文献をとりあげ検討する。

〔教科書〕 C.R. Littler. The Development of the Labour Process in Capitalist Societies, 1982.

原書講読(英)

岩下 弘

イギリスの小売業及び小売業に対する公共政策に関する文献を講読する。

〔教科書〕 その都度配布する。

原書講読(英)

大吹 勝男

商業資本論に関する論文を読む。

原書講読(英)

小林 英夫

今年度は、Robert. A. Divine, Since 1945 をテキストに戦後の日本とアジアの経済的・政治的特徴を検討する。

テキストと同時に、そのつどNew York Times, Wall street journalの日本関係の記事を読むこととする。

原書講読(英)

齊藤 正

本年度は下記のテキストを用いて、スタグフレーション下で急展開を示している「金融革命」について考える。尚、テキストはコピーして配布する。

〔教科書〕Cooper, S.K. and D.R. Fraser, "Banking Deregulation and the New Competition in the Financial Services Industry". 1984.

原書講読(英)

曾我 信孝

マーケティングおよび流通関係の雑誌等から適当な論文を選択して講読する。授業の方法は、授業時間のうち約半分の時間を受講者に訳してもらい、残り時間を全員でその内容についての討論を行います。したがって、討論を充分できない方、およびマーケティング、流通関係に興味および知識のない方はご遠慮願いたいと思っています。なお、文献については適宜当方で指示致しますので各人で準備していただきます。

〔参考書〕『マーケティング用語辞典』
『流通関係用語辞典』

原書講読(英)

中原 章吉

会計学に関する原書を読むことのできる能力を開発し向上させることを目的とする。

〔教科書〕講義時間最初に指示する。

原書講読(英)

長谷川 義和

前期は、経済学の基礎的文献の一つである、マルクスの『賃金・価格・利潤』("Wages, Price and Profit")を読む。後期は、受講者と相談して決めたい。

原書講読(英)

百田 義治

現代企業の構造と機能(経営管理)に関する文献を講読する。

〔教科書〕テキストは、コピーして配布する。

原書講読(英)

古沢 紘造

現代アフリカの社会、経済に関する文献(英語)を輪読する。アフリカは世界で最も遅れた大陸といわれているが、「人間の生活そのものの豊かさ」からみたらどうだろうか。第三世界に対する私たちの考え方の底にある偏狭で独断的なものをみつめなおしてみたい。

原書講読(英)

三井 逸友

「国際化時代」の今日、外国語、とりわけ英語によって「読み・書き・話す」能力を養うことは、あらゆる機会にますます不可欠のものとなってきている。週一回の授業で急に能力を高めることは難しいが、この時間には、実践的な英文読破の力をつけ、あわせて最新の海外経済事情を広く得てくることを狙いとする。

テーマとしては、英米での「スモールビジネス」研究、産業政策・雇用政策論などについての最新の著作、雑誌記事などのうちより、適宜選択のうえ、すすめたい。(当科目は、前期・後期で、担当者交代で開講する。)

〔教科書〕開講時、履習者と相談のうえ、定める。

〔参考書〕上級の『英和辞典』必携のこと。

原書講読(英)

光岡博美

欧米の労働問題、労使関係論に関する文献を読むこととする。使用する文献については最初の講義で配布する。

原書講読(ス)

徳永俊明

<スペイン語>—資本主義世界経済に関する文献を読みます。予習を徹底してもらいます。また、毎回日本語訳文の提出を義務づけます。

テキストは教場で配布します。

原書講読(独)

福原好喜

カール・マルクス「資本論」(ドイツ語)を講読する。在職中に第三巻の終りまで行くのが私の夢である。今年度は恐らく価値形態論を読むことになる。講義は訳のみでなく、内容の詳しい説明検討を行う。授業は少人数なのでゼミのような雰囲気である。学生諸君からの希望があれば、夏休みなどに泊り込みで勉強することもある。受講者は、第二外国語としてドイツ語をとった人、あるいは独学でもドイツ語の素養のある人が望ましい。(毎年夏休みには私のところにドイツ人の家族が泊りに来るので彼らと交歓の機会が持てたらと思っている。)

原書講読(ロ)

山縣弘志

ソ連経済に関する平易なリーダーを読む。

〔教科書〕 Вячеслав Стороженко, Бесельо советской эконоике. Москва, 1980.

原書講読(仏)

清水卓

ECの共通農業政策に関する研究書を仏語ないし英語で読んでいきます。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示します。

演習 I (2選)

安元稔

(「経済史」とは何か)

経済史という学問の性格——何を対象にし、如何に分析するか——について基礎的な素養を身につけてもらうことがこの演習の目的である。また、経済史と経済学の関係、西洋と日本の歴史発展の相違、経済史学の最近の動向についても勉強する予定である。

〔参考書〕 長岡新吉・石坂昭雄編著『一般経済史』(ミネルヴァ書房) ¥2,200

原書講読(中)

小杉修二

経済改革、対外開放政策にとりくむ中国経済の問題点を論じた、許毅『調整期中的中国経済』を読む(中国語)。

〔教科書〕 プリントして配布する。

演習 II (3選)

安元稔

(西ヨーロッパの工業化)

この演習では、工業化の歴史的意味について、いろいろな角度から考えてみることにしたい。そのために、先ずヨーロッパ経済の歴史的流れについての基本的な知識を身につけ、次いで他の地域のそれと比較しながら、ヨーロッパ近代経済史の特質を勉強する。最初は比較的初歩的なテキストを用いて勉強し、ある程度経済史的なものの見方が身についたら、個々のテーマについて、参考文献を指示しながら知識を深める、という方法で進めて行きたい。

〔教科書〕 1. ウォーラスティン著、藤瀬浩司他訳『資本主義世界経済』(上)(名古屋大学出版会)

教職および資格講座

教 職 課 程

学校図書館司書教諭講座

博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏教学部・文学部
社 会 福 祉 主 事 講 座	全 学 部 (59年度入学生より適用)
社 会 教 育 主 事 講 座	全 学 部 (62年度より仏教学部も適用)

目 次

教育原理(磯野 昌蔵).....	1	民法 I (山崎 敏彦).....	7
教育原理(上岡 安彦).....	1	哲学特講 I (東洋)(篠原 壽雄).....	7
教育原理(北村 三子).....	1	哲学特講 II (西洋)(國嶋 一則).....	7
教育原理(坂本 信昭).....	1	宗教学特講 I (松田 文雄).....	8
教育原理(村山 輝吉).....	1	宗教学特講 II (脇本 平也).....	8
青年心理学(大浜 幾久子).....	1	宗教学特講 III (洗 建).....	8
青年心理学(岸本 弘).....	1	教育史(磯野 昌蔵).....	8
青年心理学(牟田 悦子).....	2	宗教教育(櫻井 秀雄).....	8
青年心理学(渡辺 三和子).....	2	教育関係法規(船木 正文).....	8
教育心理学(大浜 幾久子).....	2	教育評価(大浜 幾久子).....	8
教育心理学(改田 明子).....	2	生活指導(秋山 達子).....	8
教育心理学(国眼 眞理子).....	2	教育哲学(汐見 稔幸).....	9
教育心理学(中村 均).....	2	教育調査(前川 真一).....	9
教育心理学(渡辺 三和子).....	2	教育学特講(熊谷 一乗).....	9
道德教育の研究(上岡 安彦).....	2	教育情報学(難波 和明).....	9
教育実習(上岡 安彦).....	2	図書館学 I (山崎 慶子).....	9
教育実習(北村 三子).....	3	図書館学 II (源 昌久).....	9
教育実習(坂本 信昭).....	3	博物館学 I (倉田 芳郎).....	10
教育実習(村山 輝吉).....	3	博物館学 II (熊野 正也).....	10
国語科教育法(神谷 道倫).....	3	博物館実習 I (館務)(倉田芳郎・太田喜美子).....	10
書道科教育法(谷村 義雄).....	3	博物館実習 II (収集)(倉田芳郎・所理喜夫・ 葉貫磨哉・太田喜美子).....	10
宗教科教育法(松本 皓一).....	3	博物館実習 III (見学)(倉田芳郎・飯島武次).....	10
英語科教育法(大沢 一雄).....	4	視聴覚教育(赤堀 正宜).....	10
社会科教育法(地理)(川合 元彦).....	4	日本文化史 I (有元 修一).....	10
社会科教育法(地理)(中島 義一).....	4	印度仏教文化史(奈良 康明).....	10
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生).....	4	西洋文化史 III (三小田 敏雄).....	11
社会科教育法(岡田 眞).....	4	仏教美術(林 良一).....	11
社会科教育法(谷敷 正光).....	4	現代美術(宮崎 克己).....	11
社会科教育法(大久保 治男).....	5	禅美術(海老根 聰郎).....	11
職業科教育法(前田 穂).....	5	美術史概説(林 良一).....	11
商業科教育法(谷敷 正光).....	5	西域美術史(林 良一).....	11
商業実習(前田 幸一).....	5	考古学概説 I (日本)(倉田 芳郎).....	11
職業指導(山田 勇治).....	5	考古学概説 II (外国)(飯島 武次).....	11
産業概説(前田 幸一).....	6	考古学特講 II (高浜 秀).....	11
世界史概説(中村 道雄).....	6	考古学特講 IV (飯島 武次).....	12
世界史概説(渡辺 惇).....	6	日本民俗学(山折 哲雄).....	12
日本史概説(芥川 龍男).....	6	仏教民俗学(和田 謙寿).....	12
日本史概説(波田野 富信).....	6	宗教人類学(佐々木 宏幹).....	12
地誌学概説(今朝洞 重美).....	6	考古発掘実習(寺社下 博).....	12
地誌学概説(長野 覚).....	6	社会福祉概論(東條 光雅).....	12
地誌学概説(渡邊 盾夫).....	6	障害福祉論(原田 信一).....	12
自然地理学概説(早船 元峰).....	6	社会福祉実習(東條 光雅).....	12
人文地理学概説(小林 高寿).....	7	社会福祉法制(小林 弘人).....	13
社会学原論(渡辺 源樹).....	7	公的扶助論(近藤 功).....	13
経済原論(小野 俊夫).....	7	児童福祉論(原田 信一).....	13
政治学原論(上條 末夫).....	7	老人福祉論(東條 光雅).....	13
政治学原論(福岡 政行).....	7		

社会保障概論（近藤 功）	13
地域福祉論（永田 幹夫）	14
ケースワーク論（高橋 重宏）	14
グループワーク論（松本 栄二）	14
社会福祉事業発達史（林 千代）	14
母子福祉論（林 千代）	14
医療社会事業論（松本 栄二）	14
社会福祉方法総論（高橋 重宏）	14
社会福祉管理運営論（重田 信一）	15
リハビリテーション論（原田 信一）	15
社会教育概論（磯野 昌蔵）	15
社会教育方法論（村山 輝吉）	15
社会教育行政財政（長澤 成次）	15
教育社会学（熊谷 一乗）	15
社会心理学（坪井 健）	16
社会教育施設（村山 輝吉）	16
児童文化（富田 博之）	16
青少年問題研究（和田 謙寿）	16
青少年指導演習（和田 謙寿）	16
社会教育演習（上岡 安彦）	16
成人指導及青少年指導（長澤 成次）	17

教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か
中等教育の歴史と問題
学校教育の役割

教育原理

上岡安彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕 『エミール』（上・中・下）（岩波文庫）
上 ¥ 550, 中 ¥ 500, 下 ¥ 500

〔参考書〕 周郷 博『教育学講義』（柏樹社）
¥ 1,800

教育原理

北村三子

人間社会・人間文化の営み全体の中で教育のありようを問い直してゆくことを目指して、教育の制度・形態・内容・方法をめぐる諸問題や、それらを規定している社会的・歴史的諸問題を考察してゆく。

〔参考書〕 堀尾輝久・松原治郎・寺崎昌男編『教育の原理Ⅰ 人間と社会への問い』
稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏編『教育の原理Ⅱ 教師の仕事』（東大出版会）
1985年 I・IIとも ¥ 1,500
ルソー『エミール』（岩波文庫）
上 ¥ 550 中・下 ¥ 500

教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待

6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕 田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所） ¥ 1,800

〔参考書〕 教師養成研究会『教育原理』（学芸図書）
¥ 950
デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫） ¥ 200

教育原理

村山輝吉

主として下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりを軸とする「教育」の原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしてみたい。

〔参考書〕 『下村湖人全集』（全10巻）（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東京出版会）

青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

岸本弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕 『青年心理学』（くろしお出版）
¥ 2,300

〔参考書〕 『青少年期の特質と教育』（明治図書）
¥ 3,200

青年心理学

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の様々な特徴を見ていく。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考え、自分なりの判断力をもつこともこの授業のねらいとしたい。

青年心理学

渡辺三和子

大人でも子どもでもない中間的な存在の青年期は、人間の成長のなかで最も激動する時であり、それだけに中高生を理解するのは難しくまたおもしろい。前期はこの時期の特徴を概観する。後期はおもにこの時期の精神的な病理現象をとりあげ、そこから現代の中学校・高校教育のおかれている状況と問題点について考えていきたい。

〔参考書〕 笠原 嘉『青年期』（中公新書）

教育心理学

大浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題をとりあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

改田明子

教育心理学の基本的な問題について、理解し、学習する。また、必要に応じて、心理検査などを実際に行ない、学習の一助とする。

〔教科書〕 『教育心理学』（改訂版）（新曜社）

¥1,500

〔参考書〕 講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学

国眼 眞理子

教育を学校教育に限定せずに、家庭、地域をも含めて考え、その中で子どもひとりひとりの個性を生かすには

心理学的にどのようなことを考慮する必要があるのかを考える。又、実際の教育現場で遭遇する青年期特有の病理現象や対人関係のあり方に関する理解を深める。

〔教科書〕 『入門教育心理学』（有斐閣双書）

¥750

教育心理学

中村 均

1. 発達

子どもはどのように大人になるか。子どもは大人とどう違うか。

2. 学習

どのような仕組で学習は起こるのか。学習を促進させるにはどうしたらよいのか。

3. 知能・学力・創造性

4. 人格

一人一人の違いはどうとらえればよいか。

5. 学級集団

学級集団はどのような役割を果たすのか。

6. 教育評価

教育心理学

渡辺三和子

学ぶことと成長すること、学習活動とは何か、生徒を理解する方法、さまざまな授業の型、集団としての学級、学習の評価等基本的な教育心理学の考え方を学ぶ。また教育の荒廃が語られる昨今、今日の学校教育の問題点を探り、教師としてめざすべき方向について考える。

〔参考書〕 北尾倫彦・速水敏彦『わかる授業の心理学』（有斐閣選書）

道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕 『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸図書） ¥750

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成・提出、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』（共文社）¥480

『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村山輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるため、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはきんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

書道科教育法

谷村義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いたず授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探求する内容にしたい。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

宗教科教育法

松本皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔教科書〕特に指定せず。但し、講義中に教材として指定することがある。

英語科教育法

大 沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法（地理）

川 合 元 彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、学習指導上の諸課題などを考察し、現在進められている学習指導要領（社会）の改訂についてもとりあげる。

また、指導案の具体的な作成も行なう。

〔参考書〕 川合元彦著『生活の場の見方・考え方—地理教育演習—』（古今書院）

社会科教育法（地理）

中 島 義 一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適合である。

〔教科書〕 山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,200

社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科教育法

岡 田 真

社会科は暗記物？ そんな理解を否定する史料が、オリジナルで岡田研究室には山積している。現在でも、社会科の本質を踏まえた授業はある。その指導案の分析等

のなかで専門技術的向上をはかりたい。

あなたの専攻と社会科との関係には、1.教材内容、2.社会科学研究の、二側面がある。「社会科教育学」の動向を踏まえつつ、あなたの関連科学としての意味をもたせていこう。学会誌等で注目されるのは、近年、エコロジーが重視されてきたことである。その福祉技術の場合との対比も、余裕があれば、試みることにする。

〔教科書〕 岡田 真『「学習指導要領」と日本の福祉教育』（駒沢大学文学部研究紀要 No. 40.各自図書館でコピーすること）
日本社会科教育学会『中等社会科教育概論』（東洋館）¥1,000
岡田 真『都市化日本の学歴社会』（大明堂）¥1,200
日本社会科教育学会『公民的資質の形成』（東洋館）¥2,700

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）
遠山 啓『競争原理を超えて』（太郎次郎社）

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』（新日本出版新書）
無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）
その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も

使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器械も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

職業科教育法

前 田 穂

職業指導の意義及び技術に関する理解を深めるとともに、職業指導の運営管理の在り方の基礎的学識を培う。

〔教科書・参考書〕 授業において指示する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」（産業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基

本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

田代三良『高校生』（岩波新書）

神田 修『学校からみた教育政策』（有斐閣）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

商 業 実 習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕 講義の際指示する。

職 業 指 導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学の単なる斡旋指導ではなくて、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕 近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）¥1,500

産業概説

前田 幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、各産業についてその特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕 宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）
日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

世界史概説

中村 道雄

主にヨーロッパおよびアメリカ世界の歴史を概説する。参考書にはこの外高校時代の世界史教科書も利用される。

〔教科書〕 衣笠・田村・中村・廣實『概説西洋史』（東京創元社）

〔参考書〕 帝国書院編集部編『詳密世界史地図』（十二訂版）（帝国書院）

世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕 特に定めず、プリント・資料を配布する。

日本史概説

芥川 龍男

中世に焦点をおいて講義する。講義の中で参考文献などを紹介するが、積極的に読破して欲しい。評価はレポートおよびテストなどを総合的に見て評価する。

教科書・参考書はとくに指定しない。開講時に詳細な注意事項を話します。

日本史概説

波田野 富信

時間数の関係から、日本史全般を各分野にわたって講ずることは不可能に近いから、日本の歴史の流れの中からそれぞれ重要事項をとりあげて理解してもらおう。従って各々がそれぞれに前もって予習をしてきて欲しい。

〔参考書〕 『新稿 日本史概論』（吉川弘文館）
¥1,500

地誌学概説

今朝洞 重美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したのち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性をもつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習する。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほしい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）（大明堂）

地誌学概説

渡邊 盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について日本地誌と比較しながら講義する。受講希望者は地図帳を持参して下さい。

自然地理学概説

早船 元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業

(土地利用図・切峰面図・带状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

人文地理学概説

小林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕 西川 治『人文地理学入門』（東大出版会）¥2,800

〔参考書〕 高校用地図帳（アトラス）と二宮書店地理統計。

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

開講時に指示する。

政治学原論

福 岡 政 行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的に分析を行う。

行政国家=福祉国家=大衆社会という今日状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心にを行う。

後期は、政治学のかかえる今日の課題について、応用科学としての政治学原論と考え、講義を進めてゆく。

〔教科書〕 『現代政治分析理論』（早大出版）

¥2,500（その他追って指示。）

民法 I

山 崎 敏 彦

われわれの日常生活を規律する民法のうち、総則・物権法を扱う。その際、できるだけ多くの裁判例を示すことにより、よりよく理解していただけるよう努めたい。聴講にあたっては、教科書のほか、小型のものでよいから「六法」を持参されたい。

〔教科書〕 我妻=有泉『民法I』（一粒社）

哲学特講 I（東洋）

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』（第一冊）（岩波文庫）

哲学特講 II（西洋）

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択

する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講Ⅰ

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講Ⅱ

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

宗教学特講Ⅲ

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法

について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版）1985. 10 ¥5,800

教育関係法規

船木正文

本講義のねらいは、教育基本法を中心とする現行の教育関係法規を体系的に概観することにある。その際、今日生起しているさまざまな教育問題について具体的に取上げ、教育関係法規にてらして説明していく予定である。

〔教科書〕 特に使用しない。

〔参考書〕 『解説教育六法』（昭和63年版）（三省堂）

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまづきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・内申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』（法政大学出版局）¥1,300

生活指導

秋山達子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことにしていないのではないのでしょうか。

〔参考書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書）

